# 第67回研究大会のまとめと反省
**（研究内容、方法、研究授業、研究発表、授業力向上のための講義等）**

| | |
|---|---|
| Ⅰ　工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと | Ⅱ　今後、工夫･改善が必要と思われる事項 |
| Ⅲ　大会前の諸準備、諸会合について<br>会場校の決定、地区研、事前研、資料など | Ⅳ　大会当日の運営や内容について<br>日程、授業、発表、協議、アドバイザーなど |
| Ⅴ　各研究部独自の意見や要望 | ○…成果　●…改善点及び課題<br>△…提案 |

**＜国語部会＞**
**Ⅰ　工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと**
**［新川地区］**
(1)研究授業等
○話合いの目的、本時の授業の予定が、ＩＣＴを用いて明示されており、取り組みやすかった。手立ても細かく講じられていた。メンバーを変えての班活動を３回行っており、生徒は多くの意見を聞くことができた。
○普段交流できない他郡市の先生方と話し合うことができた。他校のＩＣＴ等の取組、成果と問題点を聞くことができた。
○根拠をもって意見を言う習慣がしっかり身に付いていた点がすばらしかった。
○生徒の思考が見えるようなワークシートの工夫がなされていた。
**［富山地区］**
(1)研究授業等
○導入時にＩＣＴを利用し、生徒が授業に参加しやすく盛り上がる空気がつくられていた。
○朗読の仕方を考えたり見直したりすることで、人物の心情や状況、表現技法による効果について考えることができていた。朗読の工夫箇所を決めていく過程が、生徒に達成感を感じさせることにつながっていた。
(2)授業力向上のためのアドバイザー講義
・演題「『読むこと』指導における『言語活動』再考―『ノート指導』の見直し』―」
・講師：富山大学名誉教授、奈良教育大学特任准教授　米田　　猛　先生
○ノートを「自らの気付き、考えを残し、表現力を育てる場」と捉え、その使い方の指導を具体的に行い継続することの有用性について説明していただいた。ノートやＩＣＴ端末等、授業で使えるツールそれぞれのよさを最大限に生かしていくことが大切であるとの気付きを得られた。
**［高岡地区］**
(1)研究授業等
○ワールドカフェを知らなかった、やったことがなかったという方にとっては提案性のある授業であった。利点や効果的な活用場面を考えることができてよかった。
(2)授業力向上のためのアドバイザー講義（講義内容は概ね富山地区と同じ）
○今後も、講師の先生の話を聞ける機会を設けてもらえるとありがたい。
△毎回、米田先生であるが、違う先生のお話も聞いてみたい。
**［砺波地区］**
(1)研究授業等
○話合いの場面を動画で撮影し、それを視聴し、自分たちの活動を振り返ることで、生徒一人一人に新たな気づきが生まれていた。
○指導事項を確実に身に付けさせようとする授業だった。
○自分たちの討論の様子を題材としたことで、生徒は当事者意識をもって振り返っており、意欲的に学習に取り組む様子が見られた。
○動画を視聴する観点を示したことで、学習の見通しをもって活動できていた。
○協議会では、小矢部・砺波・南砺の三市の人数のバランスや経験年数を考慮したグループで討議した。若手の教員も発言しやすく、活発な協議ができた。
○部会協議①の時間を長くすることで、授業に関するグループ協議と全体での共有を十分に行うことができた。

○実践発表で示された、ＩＣＴと紙を使い分ける実践については、大変参考になる提案であった。

**Ⅱ　今後、工夫・改善が必要と思われる事項**

**［新川地区］**

(1)研究授業等

●発展的な学習を行う場合の評価の在り方について、検討が必要である。

●古典の読解の際、教科書以外の文章を取り扱う場合は出典が必要である。

●本時のねらいとして、「かぐや姫がどのような人物として描かれているかを読み取ることができる。」とあったが、かぐや姫の「気持ち」しか考えられていない生徒が一部に見られた。

●生徒が意見を深めるための手立てに工夫が必要である。

●自分の学びを振り返る場を保障する必要がある。

●生徒の思考を深めたり、気付きを促したりするための教師の切り返しの発問に関して工夫が必要である。

**［富山地区］**

(1)研究授業等

●古典に親しませることをねらい、生徒に現代語による資料を与えていたが、古典そのもの＝原文から感じ取れるものもあるため、その効果的な示し方等について工夫していく必要がある。

●生徒の興味をどのように引き出し、どのように生かしていくかを考えていく必要がある。

**［高岡地区］**

(1)研究授業等

●ワールドカフェの長所である「他者の話題をもち帰る」ことができていなかった。ワールドカフェに向けて準備をする授業を展開してもよかったと思った。

●協議会でのグループ協議の時間が、短くて残念だった。

●オリエンテーションで、授業についての説明がほしい。

**［砺波地区］**

(1)研究授業等

●学習課題は、「誰に対して、なぜそれをすべきなのか」を明確する必要がある。

●「よりよい話合い」の在り方について、動画の活用の仕方、ポイントの絞り方等の視点から、さらに検討していく必要がある。

●「考えの幅を広げるような話合いがなされたか」という点で、生徒の考えが深まれば、さらによかった。

●付箋やホワイトボードに何をどのように書くのか、という指示を明確に出すことで、個々の気付きをグループや全体で共有することができたのではないか。

●グループでの活動をメインにすればより深い学びにつなげることができたのではないか。

●他のグループの動画を見たり、一つの動画をクラス全体で見たりすれば、客観性が高まり、よりねらいに迫ることができたのではないか。

●ポイント等を例示する際には、生徒の気付きを妨げないものになっているか考える必要がある。

●討論のテーマを生徒自身に設定・選択させるとよい。

**Ⅲ　大会の諸準備、諸会合について**

（１会場郡市、会場校の決定　２地区研究会　３資料の編集及び事前研修会　４資料の製本や配付）

・全ての地区で記載がありませんでした。

**Ⅳ　研究大会当日の運営や内容について**

**［新川地区］**

△研究協議２をなくして、授業とその研究協議だけにすると、ゆとりをもって研修に取り組むことができる。また、授業力向上アドバイザー事業を年間一地区（各地区４年に一度）とし、授業公開の年と授業力向上の講演を聴く年に分けてみてはどうか（下新川）。

●今年度は研究発表を行わず、協議題に沿ってグループ協議を行った。次年度以降の部会協議②のもち方については検討が必要である。

○市内の部員数が減少している。駐車場係等を他郡市の先生方に手伝っていただけたのは、とてもありがたかった。

●勤務時間が16:30までの学校もある。研究大会の終了時刻を見直してほしい。

**［富山地区］**
特になし
**［高岡地区］**
●協議グループの人数と座席数が合っていなかった。座席を指定してもよい。
●開始時間が早かった。能越道に規制があり、時間に間に合わない人もいた。
●若い教員にとっては協議の時間が少なったようである。グループで出た意見をタブレットで集約し、スクリーンに表示するという方法もあったかもしれない。
**［砺波地区］**
●学校出発までの日程が慌ただしい。開始時間を遅らせた方がよいのではないか。

**Ⅴ　各研究部会独自の意見や要望**
**［新川地区］**
△研究大会を隔年実施にしてもよいのではないか（魚津市）。
**［富山地区］**
特になし
**［高岡地区］**
△アドバイザーの先生の話はためになるとの意見が多かったが、時間との兼ね合い、協議の不十分さを考えると、１年目・講義→２年目・授業→３年目・講義……にしてもよいのではないか（射水市）。
●高岡市は隔年で授業が回ってくるが、新しく入ってくる方も支援級に配属になるなど、授業者選定に苦心している。毎年授業でなくてもよいのではないか（高岡市）。
**［砺波地区］**
○資料作成までの日程に細やかな配慮があり、完成まで十分な余裕があった。十分に指導案検討ができたので、質の高い研修の機会となった。感謝申し上げたい。
○同じ教科の担当教師が複数名いない学校もあり、研究大会等で意見交換できるのは貴重な機会となっている。他校の先生方の取組について聞くことができ、大変有意義な時間となった。

**＜社会部会＞**
**Ⅰ　工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと**
**[新川地区]**
○電子黒板を利用して生徒の意見や考えを紹介したことは、学習のまとめを共有するうえで有効だった。
○ジグソー型の学習方法を取り入れることで、分からない部分があっても班員同士で補完し合うことができた。
○ジグソー型の学習は、広い視野で社会的事象を見るためのツールとなり、効果的であった。
○生徒が主体の学習になるようにグループ学習を工夫していた。
○わからない単語や知りたい事象に出会った際、自ら消化所や資料集を活用して調べ、課題解決に向け意欲的に取り組んでいた。
○導入の場面で、身近な店舗の実際の広告を提示して注目をひきつけ、生徒の学習内容に対する興味を高めることができた。
○エキスパート学習は、自らの考えをより深く理解し、考えを再構築する上で効果的であった。
○教師がきめ細やかな机間指導を行い、生徒をフォローした。その際、生徒が自主的に活動できるよう、助言の仕方には気を配っていた。
**[富山地区]**
○地区会員全員での指導案検討の機会を、８月の段階で設けたため、研究授業当日も授業展開のイメージがしやすく、協議会も充実したものになった。
○Chromebookを使って、各部会で話し合ったことをスプレッドシートに記入することで、時間の短縮や効率化を図ることができた。
○Chromebookの使用により、授業者をはじめ、会員全員で意見を共有することができた。また、振り返りがいつでも（大会終了後も）できるようになった。
○幹事の連絡網を作ったことで、連絡調整や検討事項の検討がスムーズにできた。
**[高岡地区]**
○タブレット端末等のICTを効果的に活用した素晴らしい提案授業であった。
○一人一人が課題に対してプレゼンテーション形式でまとめ、グループで共有する場面で効果的に活用されていた。
○他の生徒の発表を聞きながら、プレゼンテーションの画面に書き込み内容を適宜作り変えている生徒がいた。自分の考えを見直し、自己調整を図っていたといえる。
○自由進度学習に日頃から取り組み、調べた内容をまとめ共有する学習を、計画的に進めているとのことだが、本時でも、プレゼンテーションの内容をOneNoteに貼り付け共有していた。
○地域の有識者を招いての講演会は有意義であった。勝興寺や瑞龍寺等、身近な文化財について見識を深

めることができて、今後の授業にも生かすことができる。

**[砺波地区]**

○授業力向上アドバイザーに、指導案作成等授業づくりの段階から大きく関わっていただくことで、より研究主題の解明に迫る授業展開や単元構想ができた。

○授業者が問の構造図を作成することで、生徒に獲得してほしい知識を明確にして授業に臨むことができた。そのことで、授業者自身が見通しをもて、意欲的に授業研究に取り組み、自信をもって授業を行うことができた。

○授業では、生徒は多面的・多角的に考え、課題に対して主体的に向かう学びの姿勢を生み出すことができていた。

○部会協議では、「既習内容をもとにしたキーワードを拠り所にして話し合う学習活動」「社会的な見方・考え方を働かせるための学習活動の工夫」等、協議の内容が焦点化され、話し合いが活発に行われた。

○指導主事の助言、学力向上アドバイザーによる講演は、研究授業や部会協議の内容を受けた分かりやすいものであり、学びの多い研究大会であった。

## Ⅱ　今後、工夫・改善が必要と思われる事項

**[新川地区]**

●県の研究主題は「教材開発」「指導と評価の一体化」「学習活動の工夫」等、大きなテーマが複数ある。授業者にとっては、すべてを解明することは負担が大きい。研究主題の見直しが必要ではないか。

△研究主題のうち、例えば「教材開発」１つにねらいを定め、それについての研究授業を毎年行っていけば、積み重ねができ、授業力の向上になるのではないか。

●ジグソー学習を行う際、情報を収集して吟味・検討する時間が少なかったため、生徒の理解が限定的であったと感じた。今までの学習をつなげたり、情報を比較したりして、広い視野でとらえるよう工夫が必要である。ジグソー型の学習方法が授業の目的にならないようにしなければならない。

●課題解決のための資料としては、内容が正対しておらず、資料の選び方には工夫が必要であった。

●「穀物メジャー」等、生徒にとって理解が困難な重要語句については、知識として教師の側から提示して説明をしてもよかったのではないか。

●クロストークの時に、友達の発言等に対し「なぜそうなのか」という疑問や視点をもって活動するように促していくことが大切である。

**[富山地区]**

△他地区や付属中からの参加者にChromebookの貸し出しが必要であること、また、そのためにアカウントが必要であること。

●授業者や会場校の負担が大きく引き続き事務量の削減が必要。

**[高岡地区]**

●タブレット端末の有効性（全体で情報共有しやすいこと）が実証された授業であったが、生徒同士の話し合い等を通じて深まりを実感できるような授業ではなかったように感じた。より主体的で対話的な授業を追い求めていく必要性を強く感じた。

●法の制定といっても、天皇と庶民とではその意義が異なるように、立場によってとらえ方が異なるので、「誰にとって」に言及できるとよかった。

△「単元のまとめ・振り返り」の授業を拝見させていただいたが、実際に「自由進度学習」で学んでいる生徒の様子も見てみたかった。

△協議会では、小グループでの協議を増やしたほうがいいと感じた。今回は臨機応変で近くの人とグループを作ったが、今後はバランスを考えたグループを事前に考えておけばどうか

**[砺波地区]**

△研究主題について、社会科部会として何を解明したいのかを焦点化して臨むことで、授業づくりが行いやすく、よりよい研究につながる。

●生徒の多様な意見同士のつながりを明確にし、学習課題の解明につながる思考を促す「板書の構造化」については、より工夫が必要である。

●主体的に学習に取り組む態度の育成のため、「社会的な見方」と「考え方」を峻別することや、「目標」と「指導と評価」が一体化した授業づくりをしていくことが必要である。

## Ⅲ　大会の諸準備、諸会合について

**[新川地区]**

○資料製本や配付については、今後も、メールでの配信、各自で印刷、製本の流れでよい。

●アドバイザーや指導主事との連絡調整、指導案のやり取りを、部会責任者が個人で行うのは非常に負担である。

**[富山地区]**

○資料製本や配付については、今後も、メールでの配信、各自で印刷、製本の流れでよい。

●一方、印刷製本は各校で行うので、事務局から支給される資料印刷代等の諸費用の使途が不明確になっている。

**[高岡地区]**

○資料製本や配付については、今後も、メールでの配信、各自で印刷、製本の流れでよい。

**[砺波地区]**

○資料製本や配付については、今後も、メールでの配信、各自で印刷、製本の流れでよい。

●砺波地区は３市が集まって研修しているが、８月の研修会後は研究大会担当の市に任せきりになり負担が大きい。特に今年は、授業力向上アドバイザーとのやりとりが大変だった。
○今年は、授業者のいる会場校に部会責任者がおり、授業者、指導助言者、学力向上アドバイザーと連携がとりやすかった。（同じでない時と比較して）

**Ⅳ　研究大会当日の運営や内容について**

[新川地区]
○授業力向上のためのアドバイザー講義では、研究授業の反省を踏まえて、社会科の授業づくりや評価の視点など、わかりやすく教えていただいた。
○県部長に当日はアドバイザーの対応をしていただいたので非常にありがたかった。人数が限られる中で、指導主事とアドバイザーの２名を対応することはなかなか大変だった。
△同じアドバイザーに助言をいただくのもよいが、その弊害もあると思う。別の講師を招聘して見聞を広げるのもよいのではないか。
△勤務時間内に終了できるよう、時間を組んでほしい。

[富山地区]
△研究授業、研究協議、研究発表とあったため、それぞれの時間がもう少しあればより充実した研究大会になったと考えている。
△指導助言や講演も必要だが、研究授業の成果を会員が学校に持ち帰り、日々の授業に生かすためにも、グループ協議や発表をもっと充実させればいいのではないか。

[高岡地区]
○地域の有識者を招いての講演会が有意義であった。
△授業を見学するギャラリーが大勢いて、生徒はとても緊張している様子だった。全員が見にいかなくてもいいのではないか。各校代表者だけの参観でもよいのではないか。

[砺波地区]
○会場校は、広い多目的スペース、会議室、駐車場があり、部員数が多くても研究大会を円滑に運営することができた。
●協議会①の時間が、自評５分、グループ協議25分、発表10分と、かなり協議の時間が短く感じた。時間の配分について検討が必要である。
△授業力向上アドバイザーの講演に、県中教研が組織を生かして、地区と地区、今年から来年と、情報の共有や引継ぎをしっかりと行えば、今の研究をさらに発展させていくことができるのではないかという内容があった。

**Ⅴ　各研究部会独自の意見や要望**

[新川地区]
△社会科部員の減少、中堅層が少なく若手の増加等のことから、授業者への負担を考えると、毎年公開授業をするのではなく、隔年でもいいのではないか。
○知識構造型ジグソー学習やクロストーク、エキスパート学習等、さまざまな学習形態や活動を提案していただき、とても参考になる大会であった。

[富山地区]
○８月に、部員全員で指導案検討ができたことは、１０月の大会に向けてとてもよかった。そのためには、授業者がもっと早くから準備し指導案作成に取り掛からねばならない。
△来年度の授業者について、１つの学校だと授業者が限られなかなか決まらない。2校展開がよいのではないか。

[砺波地区]
○授業力向上アドバイザーの著作を購入し、事前に学んでから、事前検討会や研究大会に参加できるようにした学校もある。
△授業力向上アドバイザーより、「研究主題について、次年度へ引継ぎをお願いしたい。」とのこと。
●若手教員が増えてきており、ベテラン教員から助言や意見をもらう機会が少ない。若手の授業力向上のため研修の機会を増やす必要性があるが、負担にならないよう配慮も必要である。
●来年度の授業者の選定に悩んでいる。会場校は３市で順番に回しているが、今後は市に関係なく、授業者で決めていく方法に変えていく時期にきているのではないだろうか。

**＜数学部会＞**

**Ⅰ　工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと**

**〔新川地区〕**
○図形の移動を感覚で捉えるのではなく、根拠を示しながら説明する活動を通して、どのような情報が必要かを考えるよい機会になっていた。
○複数の問題を手分けして担当することにより協働的な学びに結び付けた。
○部会協議②で他郡市の先生方と意見交換をしたことで、それぞれの市町村や各学校の実態が分かり、参考になった。また、グループごとの発表がなかった分、気軽に意見交換ができた。
○ロイロノートの活用について、よく考えられた授業となっていた。意見集約をする工夫が見られた授業だった。
○図形が描かれた紙やＯＨＰフィルムを活用した教材が、生徒の思考を助けたり実際に確認できたりと、効果的に働いていた。また、多様な説明の仕方を可能にしていた。追体験ができたりしていたので、理解を深めることができた。

○ＩＣＴを適材適所で有効に使う方法として、また、図形の理解の際の一つの方法としても活用がされていた。
○図形分野の授業は本来時期がもっと遅いので、新たな視点で見ることの多い研究授業だった。
○タブレットを活用して、双方向性のある授業ができた。

**〔富山地区〕**

○授業の中に実験を行う時間を設けることで、生徒がより生き生きとした表情が多く見られる授業となった。
○過去に東部大会において授業者を勤めた経験がある2名のベテラン教諭が授業をしたことで、教員の経験年数を問わず、よい刺激になった。市内の数学教諭全体に前向きに挑戦することを促すことができた。

**〔高岡地区〕**

○ワールドカフェ方式のような話合い活動(4人グループで他郡市になるように調整)や付箋方式は、率直な多くの意見が出るので今後も続けていくとよい。
○大きく印刷された指導案に、工夫されている点や改善点を書いた付箋を貼りながら、場面について話合いを行うことができてよかった。
○事後研修会が一人一役あり、主体的に参加できる仕組みになっていてよかった。
○「個別最適な学び」、「協働的な学び」を一体的に充実させる提案授業としては素晴らしかった。
○数学的な活動を実際に取り入れて、実体験をもとに関数関係を見いだすところや円周角の定理にたどり着くように授業を展開していたことが効果的であった。

＜1学年＞

○線香を燃やすという数学的活動は、身近な題材であり効果的だった。変数に着目しやすく意欲的に授業に取り組んでいた。
○タブレットを用いて、実験の進行状況等を撮影しており、振り返りがしやすくなっていた。
○実験班とグループ活動班が違っていて、それぞれの生徒が責任をもってまとめ、発表していた。

＜3学年＞

○これまで見ることができなかった円周角の授業を見ることができてよかった。いろいろな手段(分度器、端末、教科書等)で、円周角の定理が成り立つことを協力しながら調べられていたこと、周りと自由に話し合っていいという雰囲気がすごくよかった。
○円周角の定理を実験結果から予想し、教科書で確認することによって深い理解につながったように感じる。
○生徒が求める学習形態が用意されており、個人・ペア・グループ・ヒントカード等の準備が適切であった。

**〔砺波地区〕**

○電子黒板やタブレットを効果的に利用することで、生徒たちが本時の内容をいつでも確実に確認することができていた。
○1次関数のグラフから分かることを考える際、パワーポイントの共同編集(班活動)を用いることで、自分では見付けられなかった考えを参考にすることができた。
○1次関数のグラフからストーリーを考えるという活動を通して、生徒がグラフの意味を意欲的に考えることにつながった。
○パワーポイントでの共同編集という活動はＩＣＴを利用した学習のよい提案であった。パワーポイントのスライドに図やグラフを載せ、それぞれの考えを効率的にグループで検討、共有ができる方法であった。教師の負担感も少ないため、今後いろいろな学習活動への応用も想定できる。
○部会協議②で、授業における「振り返り」について協議できたことは、「振り返り」についてのねらいと取組の実態、課題に感じていること等、同じ地区の先生方の授業の取組を知る非常に有益な時間となった。

## Ⅱ　今後、工夫･改善が必要と思われる事項

**〔新川地区〕**

●個別最適な学びのための支援はどうあればよいかについて課題が残った。
●実物を動かした方が分かりやすいので、タブレットで見ることに加え、一人1枚家紋の用紙があればよかった。
●部会協議①でＩＣＴ機器の活用についての議論が大半を占め、教材観についての議論がほとんどなかったので、部会協議①と②の議論の内容を分けられるとよかった。
●最近の研修はＩＣＴに関するものが多い。(教育課程研と内容が被っている)ＩＣＴの活用ありきにならないよう、どのような目的で何をどう活用するのかをもっと詳しく指導してもらえたらよい。
●2年続けて、図形領域だったので、来年度はどうするのか。引き続き、図形でいくのか、この時期に学習する関数でいくのか、全く違う領域にトライするのか検討していく必要がある。
●授業の中で話し合う内容と結論が簡単すぎたため、間延びしている時間があった。
●ＩＣＴ機器を持ってきていない、充電の切れている生徒への支援や準備が必要である。
●ＩＣＴ機器を使うことによって、書くことによって覚えるという作業が減るので、自分の考えをまとめる時間も必要である。
●図形を動かして重ねるという作業をＰＣ上でもできれば、より効果的なＩＣＴの活用になった。
△事後の協議会は、研究授業についての協議1本でよい。本時のねらいを達成するための手立てとして、学習活動の形態や進め方、用いた教材が適切であったかを検証する時間を十分とる方がよい。

**〔富山地区〕**

●少子化により数学教諭が複数いない学校やベテラン教諭ばかりの構成になっているなど、授業公開を依頼する学校に2回目、3回目の授業を依頼するしかない状況が生まれている。
△新川地区と富山地区で授業公開を隔年にして研究を進めるなどの工夫が必要である。

**〔高岡地区〕**

●1年生の授業で関数関係を表すときに、生徒は何をｘで表し、何をｙで表しているのか分かっていない。そのため、様々な一次関数が立式されていた。（ｙ＝ａｘ，ｙ＝ａｘ＋ｂのような式）中には、「今回は比例の式になるんだ」と決めつけ、「だいたいこれくらいの比例定数だろう」と勝手な式が立式されていた。しかも、授業の終末では、式もグラフも押さえずに終わっていたのが残念だった。時間配分の工夫は検討の必要がある。
●3年生の授業では、動画を使いながらありとあらゆる場合を生徒に示しているところがよかったが、定理の理解を深める問いや、問い返しが難しいと感じた。
●付箋方式「個→グループ→全体」で、活発な話合いができていたので、研究協議での話合いや発表の時間がもっとあるとよかった。全体共有の時間が短かったので、他のグループでどんな協議になったのか気になった。
△付箋を事前に書いておき、協議会が始まったらすぐに貼り出せるようにしておけばよい。
●本年度からスタートしたとやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）の目指す「問題発見・解決能力」の育成という視点から数学の必要性を感じさせる授業展開が必要ではないか。
●「探究的な学び」と「1人1台ＩＣＴの利用」を必須としていくのか。必須の場合、提案授業として導入段階の指導案は望ましくないのではないか。
●定期的に授業に数学的活動を取り入れることや個別最適な学習と協働的な学びのバランスをとることが難しい。
●個別学習ではなく「個別最適な学習」につながるようにするための支援や手立てが必要であり、本時のみ意識するのではなく、自分にとって最適な学びになる問題は何かを、生徒が選べるように日頃から指導すべきだと感じた。
△毎年、同じ時期に行われるので、単元がいつも同じになってしまう。この時期にしていくのであれば、3年に1回程度でないと授業を行う先生も大変になる。また、時期を変更することができればよいのではないか。

**〔砺波地区〕**
●授業のねらいと学習活動について、ストーリーをつくることを目標やねらいとせず、あくまでも手段や学習活動として捉える。ストーリーをつくる中で1次関数やグラフの有用性に気付かせる発問や学習活動を入れることができるとさらに深い学びにつながると感じた。
●ストーリーを考えようという課題なので、数学とは関係のないことで悩んだり、話し合ったりしていた。
●共同編集をしたことが、もっと効果的になるような展開でもよかった。
●授業者の学びと授業参観者の学びを最大化する方法として、部会協議①も始めからグループ協議の形式でもよい。
●タブレット端末を、学習道具の選択肢のひとつとして使えるように指導していかなければならない。
●様々な意見や考え方を知り、多面的、多角的に考えるような時間があればよかった。
△部会協議②も時間が限られているため、グループ協議の後に各グループの報告の時間を取らず、そのまま協議の時間にあてるという方法も1つの方法と考える。

## Ⅲ　大会前の諸準備、諸会合について

（①　会場郡市、会場校の決定　②地区研究会　③資料の編集及び事前研修会　④資料の製本や配布）

**〔新川地区〕**
3○事前に指導案を最終検討し、必要な情報を各郡市で連絡を回すことができてよかった。
4○現行のままでよい。データを資料で送ってもらい各校で印刷の方がよい。

**〔富山地区〕**
1●会場校決定が困難になってきている。

**〔高岡地区〕**
1○駐車場をしっかりと確保してありよかった。
1△授業者は、学校で決めるのではなく、未経験者等の人で決めるのがよい。
2○生徒同士が自ら学ぶ姿や分からない級友に教える姿が印象的だった。
3△指導案の事前検討の段階から内容に変更があった場合は、事前に伝えてほしい。
4○現行のままでよい。担当の負担が減るので各校印刷がよい。
4○協議会の流れ（司会原稿等）が事前に分かるので、先が見通せてよかった。
4●各校教頭宛に送付するのがよいか、部員に送付するのがよいかは疑問である。教頭先生の負担が大きい。

## Ⅳ　研究大会当日の運営や内容について

（①運営分担や日程　②研究授業　③研究発表　④研究協議　⑤授業力向上のためのアドバイザー講義）

**〔新川地区〕**
1○受付開始時間が14:00、授業開始が14:10だったので、余裕をもって勤務校を出発できてよかった。
1●受付時間がもう少し早められると、解散時刻が早められた。
1△終了時刻が勤務終了時刻を越えていたので、勤務時間内に終わるようにお願いしたい。市町村で違うと思うが、一番早い市町村に合わせてほしい。遅くても16時半終了が適切ではないか。
2○普通教室ではなく、多目的オープンスペースでの授業であったため、狭くなく参加者がゆとりをもって参観することができた。
3△より進んだＩＣＴ機器を取り入れている地域の学習スタイルを紹介してもらう機会があるとよい。
4●指導案では授業の視点が、＜とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）＞と関連付けて「子供の問題（課題）意識を高める」手立てと、「子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする」とあったが、途中から協議内容がＩＣＴの活用ばかりになり、授業の視点について協議が深められなかった。
4●協議会①の時間が短い。発言する人も数人に絞られてしまうので、各郡市で話し合う時間を設けるなど、全員が授業に対する意見を述べる場と時間を用意してほしい。

〔富山地区〕
5○当日の授業についても評価していただき、大変有意義な講座であり、継続して講師派遣を依頼したい。
〔高岡地区〕
1●事前に割り振っていただいた分担に基づいて役割を果たしたが、記録写真用の端末が用意してあるとよかった。
1●お盆明けに、もう一度指導案について話し合いの場があってもよかった。
1●自分が参観する授業以外の学年の授業内容や協議会の内容が、全体研修会の場で聞けるとよかった。
1△今回、教員2年目の先生が推進委員長になったが、もう少し経験を積んだ人を選んだ方がよかった。
2●会場の教室が廊下から見ることが難しい状況だったため、見学しにくく感じた。
4○数学を学問の域に留めるのではなく、日常生活の中から必要感を引き出すことが大切だと感じた。また、周りの人と学び合うことで、新たな発見や豊かな発想が生まれるような授業を自分も目指したいと感じた。
4△非常に考えられていて、素晴らしかった。もっと協議会を効率的に進めていくならば会場校のタブレットをお借りして、教員側もＩＣＴを利活用した協議会の検討が必要。
5○全国学力調査の結果から、生徒の弱い力や指導すべきポイント等を改めて発見させられた。また、生徒が授業で発見したことをしっかり押さえ、教師側は焦らずに、その意見を待つことが大切だと分かった。
5○方程式の解の意味を生徒は本当に理解しているのかを問う問題で、自分の指導を思い返しながら考えてみると、確かに「解」という言葉の意味を深く理解している生徒は少ないだろうと振り返ることができた。
5●アドバイザーが授業の視点を入れた講義が必須なのか。せっかくの先生の講義なので、じっくりと原理等の講義だけでもよいのではないか。
5●個別最適な学習の具体的事例をもっと知りたかった。
〔砺波地区〕
1●会場担当(部会責任者)の負担が大きかったかもしれません。運営委員でうまくフォローしていきたい。
4○部会協議内容を事前に周知したことで、意見がたくさん出て有意義な時間となった。
4○グループ協議をすることで地区内の教員の情報交換のよい機会にもなるため、来年以降も継続するのがよい。
4△典型的ではあるが、指導の重点Ｐ89にあるようなフリーカード法による班別協議でもよかった。その方が会員の発言量も増える。

**Ｖ　各研究部会独自の意見や要望**
〔新川地区〕
○他郡市のＩＣＴの状況やインターネットの回線状況等を知ることができてよかった。このような他郡市の状況を知る機会を今後も設けてほしい。
△毎年、10月開催のため、研究授業で扱う題材が同じことが多い。例えば開催時期をローテーションにするなどできないものか。(2年おきに1学期に行う年と2学期に行う年を交互にするとか)もっと他の領域の実践を見たい。
〔富山地区〕
特になし
〔高岡地区〕
特になし
〔砺波地区〕
特になし

**＜理科部会＞**
**Ｉ　工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと**
**［新川地区］**
○ロイロノートを活用し、前時の実験写真や考察を各自の端末に保存し、話合いの補助となった。また、提出されたデータを一斉に映し、生徒の意見を比較することができた。意見の相違が視覚的に分かりやすかった。ＩＣＴ機器が効果的に使われており、時間短縮の効果も感じた。
○「実験・観察の場面」ではなく、「考察の場面」の研究授業だったので、新鮮だった。１時間の授業の内容を焦点化し、じっくりと考えたり意見交換したりする時間を確保することは大切だと改めて感じた。
○生徒の実態を踏まえた授業構想となっているように感じた。ＩＣＴを使うことが目的になっておらず、要所を押さえた活動になっていた。
○「とける」ことについての話合い活動では、粒子モデルを用いたり、塗りつぶしたりするなど多くの考えが出ており、画面共有等の工夫を行い自己調整する場を設けることができていた。それぞれの考えを聞く場面がもう少しあれば、生徒から考えを引き出し、共通点を見付け、「とける」ことの定義について深めることができたのではないかと考えられる。
**［富山地区］**
○新型コロナ感染症が落ち着きを見せ、従来の研修形態（２つの公開授業、部会協議①、②）に戻して２年目となった本年度の研修は、会員の参加率も高く、直接見ることで学び、直接他校の先生方と交流したいと考える会員の意識が現れていたものと捉えている。
○３学年の授業は、孫の代に現れる遺伝子の組み合わせと形質を検証する交配モデル実習から規則性を見いだし、その理由をメンデルの遺伝の法則と関連付けて説明できることを目指す授業であった。一般的には、メンデルの探究過程を追体験させることで学ばせるこの領域で、生徒は授業の序盤において、黄色と白色の種子が混在するトウモロコシを目にすることで、「なぜこのような出現率になるのか」といった疑問から、課題を設定・把握し、見通しをもって探究活動を進めようとしていた。
○２学年の授業は、ブラックボックス（内部の回路が見えない箱）を用いて、接続する端子を変えること

で箱の中の回路を予想、検討し、電気回路に関する基礎的な理解を深めることを目指すものであった。授業者は、ブラックボックスを「玉手箱」に見立て、生徒には、「浦島太郎からの手紙」と称して、課題の設定・把握を助ける指示書を複数準備し、生徒の探究を手助けする手法をとった。指導案に現れない工夫が随所に見られ、主体的に課題解決に臨むための生徒の心情の醸成に努めていた。

**［高岡地区］**

○教科書の実験方法より、誤差の少なくなるような装置の工夫があることで、力の規則性が見いだしやすくなっていた。角度を変えたり、重さを変えたりと、生徒の自由度が広がれば、なおよいと感じた。

○自作の実験器具がよく工夫されており、生徒は課題解決に向けて意欲的に活動に取り組んでいた。安価な材料で製作されており、演示用、生徒用ともに汎用性が高い素晴らしいものだと感じた。

○導入から実験のまとめまで、ＩＣＴを効果的に活用していた。すべての班の実験結果をすぐにＩＣＴを活用して確認できるようにし、自分の班との違いを比べて検討し、課題に対する考察を行なえるように工夫している。

○火山の噴火実験は生徒にとっても面白い実験だと思うので、今後も取り入れていきたいと思った。このように、普段は演示実験で行うものを生徒実験として取り入れたり、新たな実験を開発したりすることは大切であると思った。また、その実験を通してどのようなことを気付かせたいのか検討を重ねていきたいと感じた。

○高岡市中教研理科部会の方々が指導案検討、実験結果がきちんと得られる実験器具の開発等を分担し、よりよい授業実践に向けて一丸となって取り組んでいた。

○２つの市で研究発表を行ったことは、さまざまな郡市の取組が聞くことができて大変参考になった。

**［砺波地区］**

○位置エネルギーを決める要素について、生徒が立てた仮説を検証するための実験を行ったことは、生徒が主体的に事象に関わる上で効果的であった。また、前時に行ったペットボトルを色々なボールで倒す実験は、エネルギーを決める要素についての疑問を形成する上で有効であった。

○結果をまとめたり、発表したりする場面でteamsを効果的に用いたため、生徒の情報共有にかかる時間が短縮されていた。

○ICT機器を活用して各班の実験データを提示したことで、データの傾向の読み取りや比較が容易に行えた。また、実験のようすを端末で動画撮影し、発表することで、生徒は興味を持って聞くことができた。

○実験結果からICTを使ってグラフを作成したものを生徒全員が見られることで、考察がしやすくなり、生徒たちの達成感が得られた。

○授業力向上のための講義では、授業の中で問題を見出して課題を設定する場面が不足しているという問題点について、簡単で効果的な事象を導入時に見せていくことが必要であることを部会で共通理解した。

## Ⅱ　今後、工夫･改善が必要と思われる事項

**［新川地区］**

●ICTの活用ありきにならないように、どのような目的で何をどう活用するのかをもっと詳しく指導してもらえたらよい。

●研究授業の事後協議会では、本時のねらいを達成するための手立てとして、学習活動の形態や進め方、用いた教材等が適切であったかを検証する時間を十分とる方がよい。

●ＩＣＴの活用は効果的だと思ったが、シート数が多く提出箱に提出する回数が多いと感じた。タブレット入力にすべきか、ノートなど紙媒体に記入するか、使い分ける必要性を感じた。

●本時は「粒子」の見方・考え方を発見させる展開だったが、必要十分な情報を確認し、あらかじめ「粒子」の見方・考え方をもってこの学習に取り組んだ方が、より中身の濃い話合いができると思った。

●協議会①と②で内容の重なりがあったので、関連する内容を深めさせるよう互いに意識し、進めていきたい。

**［富山地区］**

●生徒は、問題を見いだし、課題を設定する場面の経験が不足している。

●提示された事象が、問題を見いだすための適切な事象であるか、検討する必要がある。

●生徒がもっている材料や今回の実験、観察によって得られた結果から、解決可能な課題であるのか、また解決までの見通しをもたせることができるのか検討し、授業を仕組む必要がある。

**［高岡地区］**

●予想と結果を比べながら、自分の予想がなぜ結果と違い、このような結果になったのか、振り返る必要がある。また、結果を受けてすぐに考察させず、振り返る場面を意識させたい。特に３年生では、探究の過程を振り返ることが重点となっていることからも大切である。

●他の班の違う実験方法を知り、実験結果について予想させ、結果が共有できれば、その中から類似点・差異点を見つけることができ、多面的な見方や妥当な考え方をもつことができる。

●学びのふり返りの場面では、生徒を前に出して先生の代わりに説明させたり、自分の考えを広めて、互いに共有し合えたりするような、生徒同士の横のつながりを意識するとよい。

**［砺波地区］**

●研究授業の後半は教師が発言する機会が多くなってしまったため、生徒から出た発言を拾って考えさせたところで止めてもよかったかもしれない。

●最後の振り返りの時間を確保したい。その際は、教師が視点を示すとよい。

●観察・実験においては、予想を立て、方法や結果が適切であったかを振り返ることが大切であるが、予想を立てる時間や振り返りの時間の設定が難しく、時間の工夫が必要である。

●生活体験や学習内容を基に、互いに意見を出し合い、友達の考えと比較することは、見通しをもって観察・実験をすることにつながり、参加した生徒が満足できる授業にもなるので、できるだけ多くの考えを出させるための工夫が必要である。

## Ⅲ　大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

**［新川地区］**

○事前に指導案を最終検討し、必要な情報を各郡市で連絡を回すことができてよかった。
○資料の製本や配布では、現行のまま各校で印刷すればよい。
○授業の打ち合わせができ、有意義な研究会にすることができた。一方で、メールで配布されていた資料は、内容が重複して書いてある箇所があり、分かりづらかった。
△他郡市の副部長では、やり取りがしづらく負担が大きい。会場郡市所属の教員が部会責任者をした方がよかったのではないか。
△資料の編集及び事前研修会では、事前研修会への参加はどこまでの人が集まればよかったのか協議会②に関わる教員の参加が必要ない場合、どのように連絡をしたらよかったのか。
△事前研修会の出欠を部会責任者が把握していない様子だったが、出欠の情報共有はされていなかったのか。
△資料の製本や配布については、教育事務所や教育センターに送る資料は郵送ではなく、メール添付で良いと感じた。

**［砺波地区］**

△教員数の減少から、授業研究の授業者が限られてきていること。
○資料の編集及び事前研修会では対面での指導案検討会を１回、オンラインでの検討会を１回行った。次年度も継続したい。
○資料の製本や配布では、部会員への配布はデータ配信になったため、印刷製本の時間が短縮されてよかった。

## Ⅳ　研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

**［新川地区］**

△当日の駐車場が資料に記されていた場所と違っており、戸惑いました…。
△終了の挨拶等を含めて、すべての日程が勤務時間内に終了すべきである。
△研究発表の準備の負担が大きい割に、発表したことによるメリットをあまり感じられなかった。発表についての指導助言もなかった。他教科では紙上発表をしていないと聞く。なくてもよいのではないか。
△協議会では、指導案の授業の視点、＜とやま型学力向上プログラム(Ⅲ期)＞と関連付けて「子供の問題（課題）意識を高める」手立てと、「子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする」とあったが、ICTの活用へ偏った協議となったように感じた。
△協議会について、事前に指導助言者と連絡を取り、どのような指導助言をいただくのか調整が必要であると感じた。
△研究協議では、郡市によってほぼ発言をしないところもある。郡市部長会で問題提起した方がよいのではないか。
△授業開始をもう少し遅くした方が準備にゆとりができて良かったと感じた。
△今年度は授業と発表を担当する郡市が重なってしまい、順番を入れ替えて対応した。次年度以降、アドバイザーが来られるときの発表をどうしていくのか、近年のように重なる度に対応するのかを決めていかないといけないと感じた。
○一人一台端末について意見の交流ができ、とても有意義な協議になった。
○研究発表では、他校の実践を聞くことで授業改善につながると感じた若手の教員も増えており、先輩に学ぶ機会が増えてよかったと感じた。

**［富山地区］**

△教科調査官や視学官等から、理科の今日的な課題の話が聞ける「授業力向上のためのアドバイザー講義」は大変に有益な時間になると感じている。現在、２年に１回の機会が与えられているが、リモート授業形式で、毎年拝聴することはできないか。

**［砺波地区］**

△協議会の十分な時間の確保が必要だと感じた。
○全国学力・学習状況調査から見える課題や、求められる授業デザインについて、他県での取り組みを含む様々な授業実践の事例を紹介いただき大変参考になった。

## Ⅴ　各研究部会独自の意見や要望

**［新川地区］**

△会場校は、これまで通り郡市でローテーションしていくべきだと思います。
△毎年１０月開催であるため、研究授業で扱う題材が同じことが多い。また、単元の順番を変更する等の調整は、生徒のためになるのか疑問である。開催時期をローテーションにする等できないものか（例えば、２年おきに１学期開催と２学期開催を交互にする等）。他の領域の実践を見たいという意見が多かった。
△アドバイザーの講演がない年の発表以外の研修方法について検討したい。

**［富山地区］**

△教科研究の王道は、授業研究であるとの考えのもと、研究主題に沿った授業づくり、授業に参加する生徒の見取りから得られる授業の改善に今後も努めていきたい。富山市は会員数90名を超える大所帯であるが、研修のマンネリ化は否めない。東西交流の活性化並びに東部同士でも交流を図り、互いに刺激を受ける中で、研修の活性化を図れないか。

**［高岡地区］**

△今後も研究発表を２つの市が行うのであれば、準備期間を考慮すると、事前提出資料は指導案のみの形がよいと思う。

**［砺波地区］**

△研究大会の授業者について、各市内の教員で授業することができる人員が限られており、市での割り当てではなく地区内で決めていく必要性がある。
△研究大会では、研究発表だけではなく普段の授業実践における意見交換ができるとよい。

**＜音楽部会＞**

**Ⅰ　工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと**

○各領域及び郡市での研究の成果を生かした指導案に基づいて授業実践が行われ、大会前･当日ともに大変勉強になった。
○全国大会であったため、複数年にわたりトライ授業や指導案検討など全県を挙げて取り組むことができた。
○指導助言者の的確な助言から、授業で使える多くのヒントを得られた。
○９月にトライ授業の互見を行ったことは効果的であった。

**Ⅱ　今後、工夫・改善が必要と思われる事項**

●発表の際にパワーポイントを拡大して見せたり、注目する部分を指し示したりするなどの工夫があってもよかった。
●切り返し発問の重要さについて改めて考えさせられた。生徒の意見をうまく引き出し、深めていくための切り返しの発問を今後研究していくことが大切だ。
●三味線のレンタル費や講師招聘について整えていく必要がある。

**Ⅲ　大会前の準備、諸会合について**

（①　会場郡市、会場校の決定　②地区研究会　③資料の編集及び事前研修会　④資料の製本や配布）

３資料の編集及び事前研修会

●全国大会当日前に、全員で共通理解を図る場があればよかった。メールでのやりとりだけでは共通理解が図れなかった。
●東海北陸や全国規模の大会がある際には、組織としてどのように運営を進めるかを明確にし、全ての先生方が共有できる体制づくりが必要。
●授業者の学校に近い地域で研究チームを組むと集まりやすい。

４資料の製本や配布　等

●大会冊子が当日もらえたが、指導案は事前にPDF配付されればよかった。
●郡市で検討した授業を、当日は他領域担当だったため見ることができなかった。

**Ⅳ　研究大会当日の運営や内容について**

（①運営分担や日程　②研究授業　③研究発表　④研究協議　⑤授業力向上のためのアドバイザー講義）

１運営分担や日程

●大規模な大会であればあるほど、全体で意思疎通、共通理解を図って業務に就くことが大切だ。部門の責任者は資料を残し、持続可能な体制を作ることが必要だと感じた。
●全体で集まる機会があればよかった。全体像が分からず見通しを持って動けなかった。

４研究協議

●授業後の協議会や指導助言の時間はもう少し長い方がよい。

**Ⅴ　各研究部会独自の意見や要望**

○領域チーフ同士の情報交換は大変ありがたく、勉強になることが多かった。
△今回で来たつながりを今後の指導や研究に生かしていくことで、富山県の音楽教育の発展につながっていくと思う。

**＜美術部会＞**

**Ⅰ　工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと**

**［東部］**

○ＩＣＴを活用した鑑賞授業の提案であった。スライドで部分に分けて鑑賞することで、詳しく細部までじっくりと鑑賞を行うことができていた。
○ＩＣＴを用いたことで、全員の意見をリアルタイムで確認することができ、他の意見も参考にしながら活動に取り組んでいた。
○最後にゲルニカ全体に戻って振り返りを行ったことで、生徒たちはじっくりと作品と向き合い、考えを深めている様子が見られた。
○鑑賞において、ICTの活用の仕方の参考になった。（部分に分けて鑑賞する、書き込みをタブレットでできる。等）
○タブレットでは画像を拡大できるため、気になる部分の表現を細かく見ることができる。
○吹き出しの位置を自由に設定でき、考えも書き込みやすいように思った。
○自分の意見をもった上で、グループ鑑賞することの大切さを実感した。
○部分ごとの鑑賞ができるのは、ポイントが絞れてよいと思った。
○ＩＣＴを用いて班活動の際に他の班の考えを見ることができ、自分の考えをまとめるための手掛かりになっていた。
○授業の始めと終わりに、個人で鑑賞する時間をとることで、見え方の違いを実感できたように感じた。
○タブレットの使い方に多少慣れ・不慣れはあるかもしれないが、全員が授業に参加できる状態であるこ

とは、普段からの指導の成果である。話合いの様子からも、鑑賞の活動に生徒が日頃から親しんでいる様子を伺うことができた。
○タブレットの入力が手際よくできたため、作品とじっくり向き合う時間がとれたように感じた。
○タブレットは部分鑑賞であるとズーム等ができてよい。作品全体の鑑賞は、生徒が行っていたように教科書を活用した方がよさを十分味わうことができるのでよかったと思う。タブレットと教科書等の活用は必要に応じて選択し、効果的な鑑賞活動につなげていければよい。

**［西部］**

○砺波地区の夏季研修会として、授業に活用することができるＩＣＴ技能の実践を学習した。西部地区大会（庄西中学校開催）の授業では、ＩＣＴの活用を視野に入れていたため、効果的な活用方法のヒントが得られ、有効な研修となった。
○授業では、ＩＣＴと実物を併用した意見交換をしたり、生徒の評価コメントが一覧で大型テレビに映されたり、最後のワークシートはアナログであったりして、授業のねらいや何をどう学ばせるかを明確にしたものとなっていた。時間短縮と情報の共有が有効に行われた授業であったといえる。
○本時の相互鑑賞が今後の表現活動にフィードバックされる鑑賞内容であった。
○級友の制作の工夫点を知ったり、アドバイスをもらったりすることで、自分の作品を見直す契機となった。
○鑑賞の３つの視点を提示したことで、ポイントを絞った意見交換を行っていた。
○アイディアスケッチのためのペイント３D、自分の主題を説明するためのパワーポイント、相互鑑賞のコメントを記入するためのwhiteboard、授業の展開に応じたアプリケーションを適切に選択し、効果的にICTを取り入れられていた。
○コメント入力用の画面作成から、発言する生徒に合わせた画面操作など、ICTサポーターの支援もあり、生徒の意見の共有が図られていた。
○生徒はタブレットを利用して自分の考えを発表したり、自分の感じた思いを書き込んだりすることで、今後の制作への意欲を高めていた。
○制作途中での、作品の共有、発表の効果について考え、協議することができた。

## Ⅱ　今後、工夫・改善が必要と思われる事項

**［東部］**

●ＩＣＴを使うと情報共有できるメリットがあるが、入力に一生懸命になっていた。顔を見合わせて直接話合いで思いを伝え合うこともできる。
●アナログとデジタルをそれぞれ効果的に使えるようにしていくとよい。
●今後は、他の作品に関する著作権や知的財産権等に関する指導も必要である。

**［西部］**

●題材や授業のねらいをよく考えてどのタイミングでどのアプリを使うかを見極める必要がある。今後、指導案にアプリ名が入ると、その授業研究がより実践的な資料になると思う。
●グループの人数をもう少し減らすことと、ＩＣＴを使う場面を精選する必要が感じられた。
●一部の生徒はICTソフトに不慣れで、思ったように感想を記入することができていない生徒も窺えた。ICTの利用の仕方によっては、必要以上に時間がかかる可能性もあると感じられた。

## Ⅲ　大会前の諸準備、諸会合について

１会場校の決定について

**［東部］**

●会場校で複数教科が研究大会を行うと準備や運営等が大変になるので、可能なら調整できたらよい。（駐車場や協議会場等）

**［西部］**

●他の教科部会に比べて少人数の参加であり、多忙化解消の観点ではよかった。しかし会場校との連携の面で課題があった。研究協議会場のレイアウトや会員や来賓の動線確認、湯茶の準備等、運営準備の詳細については調整や連絡が困難であった。最低でも、授業者や運営主任までは参加し、互いに顔を合わせて運営について協議したほうが後々の運営にはよいと考える。

## Ⅳ　研究大会当日の運営や内容について

**［東部］**

●駐車場が分かりにくかった。富山市の先生方は分かっていても、遠方からの先生方には分かりづらい。地図ではふれあい館側の周辺の記載はあったが、遊戯広場道路向かい側の情報が何もなかった。交差点等、他郡市の部長に役割分担するなどすればよかったのではないか。

**［西部］**

●アドバイザーが移動にタクシーを使用したが、その会計方法が不明であったため授業校に問い合わせが発生した。準備段階で互いに連絡したり調整したりすることが必要であろう。

## Ⅴ　各研究部会独自の意見や要望

**［東部］**

○アドバイザー講義が毎年実施されるとよいと思う。
●毎年９月の郡市中教研部会で事前研修をするため、富山市の先生から指導案を送っていただきました。できるだけ早めに（仮）指導案、もしくは授業の流れを送っていただけると有難いです。

**［西部］**

●研究授業で窺えたように一部の生徒はICTソフトに不慣れであったり、教師側も学校によってICT活用の差があったりすると考えられる。ICTを有効に使えるような手引きがあると嬉しい。

＜保健体育部会＞

## Ⅰ　工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

**［新川地区］**

○本時でキーワードとなる技能や課題等について導入で確認したことで、本時のねらいにつながった。
○生徒の意見を取り入れて、教員が対話をしながら対応し、いきいきとした積極的な活動になっていた。
○場の設定の工夫により、生徒の積極的な活動につながり、スペースを使用した攻撃をしようとする思考が働いていた。
○ホワイトボードやマグネット（形や色が異なるもの）を利用することで、視覚的に理解が深まり、作戦を立てるなど班での話し合いが深まっていた。
○アドバイザーの講義で部活動やＡＩに関して今後の展望を聞き、見通しをもつことができた。

**［富山地区］**

○グループ協議で、クロムブック（jamboard）を活用し意見交換を行った。部員全員が自分の考えを伝えることができたり、他のグループの意見を聞く（見る）ことができたりするなど、意見交流が充実したものとなった。

**［高岡地区］**

○「Microsoft Sway」でグループの課題を明確化し共有されていたり、各グループに１台電子黒板やスクリーンが用意されていたりするなど、生徒一人一人が課題解決に向け、積極的な活動につながっていた。
○「全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール」の曲を用い、規定部分と創作部分の２部構成にすることで、生徒が前向きに取り組みやすい内容になっていた。
○曲のテンポが適切だったので、どの生徒も取り組みやすい内容になっていた。
○生徒同士が相互評価をすることで、やりがいをもって取り組む様子が見られた。
○何の抵抗もなく男女が手をつなぎながらダンスをすることに、共生社会の可能性を感じた。
○アドバイザーから授業研究等について有益な情報を得られた。

**［砺波地区］**

○年間７時間の体つくり運動を各学年の年間計画にしっかりと位置づけ、学習した運動を基に、各自の体力を高めたり健康を保持増進したりするための運動の選択ができるよう、３年間を見通した指導計画が立てられている。
○家庭での実践についてタブレット端末を使って提出させるなど、生徒の実践に対する評価がされている。
○本時の流れが示されていたり、言葉がけやタイマーを使って時間配分が適切に示されたりするなど、生徒が活動内容を分かるような支援が行われていた。
○辛い運動を持続して行う場面で、教師の前向きな励ましや言葉がけにより生徒のやる気が助長されていた。
○タブレット端末に、教師や生徒がモデルとなった動画を示し、クリックするだけで、「柔軟性を高める運動」「巧みな動きを高める運動」「力強い動きを高める運動」「動きを持続する能力を高める運動」の４種類の運動が検索できる教材が作成されており、教科書の挿絵だけでは動きを捉えにくい生徒にも具体的に分かるような支援がされていた。
○タブレット端末のアプリを活用し、多くの運動例を提示することで、運動経験が少ない生徒も、運動計画を立てやすくなった。
○タブレット端末の運動例を参考に、運動計画について運動の負荷に着目し、ペアでアドバイスし合うことで主体的、対話的で深い学びにつながっていた。
○保健分野の授業で得た知識を基に活動できるような学習課題の設定することで、保健分野と体育分野の関連性を大切にしながら学習をすすめることができた。
○運動量が確保されている。また、準備運動から協力性が見られる動きが多くあった。
○指導者が生徒の思いを適切に取り上げて授業を進めていることが、生徒の学習意欲につながっていた。
○生徒の話合い活動では、互いの立場を理解した上で相手のためにアドバイスしていた。
○これまで提案が少なかった単元「体つくり運動」での授業研究は、今後授業をする上で参考となるものであった。
○部会協議の進め方として「授業リフレクションの進め方」を提示されたことは、協議の効果的であった。
○部会協議で「若手教員の悩み」を取り上げたことがよかった。若手だけでなく同じように悩んでいる者もいるので、話し合うことで日頃の取組を振り返ることができた。

## Ⅱ　今後、工夫･改善が必要と思われる事項

**［新川地区］**

●課題に応じた授業展開の工夫が必要、活動時間と話合う時間のバランスをねらいに沿って調整するとよい。
●教材研究を十分に行う必要がある。パスは移動してマークを外すのか、スペースを利用するのかによって学ぶことが違うので、場の設定も変わってくる。何を指導するのか、どうしたら効果的に教えることができるのか考える。
●今日の学習課題を使って、試合（まとめ）をすることを継続することで、集中して学習課題に取り組めるようになるのではないか
●話の視点を明らかにする。（ポイントを絞る）
●見本動画を活用し、どうすべきかを理解させる。また、パスについて見る視点を理解させる。
●パスの技術、動きづくりにつながる練習をする。
●コートのサイズを設定した意図や人数分け、生徒個人の説明（座席表に教師の願いや特徴が書かれている資料）があるとどこに注目して授業を参観するか明確になる。
●話合いと運動量とのバランスを考えた授業を工夫したらよい。

**［富山地区］**

●協力体制を構築することが難しく、授業者の負担が大きかった。授業を構想する段階で、共に考えたり、助言を受けたりする機会について検討していく必要がある。
●授業会場（武道場）が部員で埋め尽くされ、生徒に圧迫感を与えていた。授業動画をリアルタイムで配信するなど、一部遠隔で授業を参観するなどの工夫を検討する必要がある。

**［高岡地区］**

●学習専用端末を利用されていたが、映像が撮れていなかったり、接続しにくかったりするなどのトラブルが多いように感じた。そこで時間がとられてしまうのは、端末の有効的な使い方の検討が必要であると感じる。
●研究授業においては、本時の授業の大半が振り付けを考える時間となってしまい十分な活動量が確保できなかった。また、グループの動画撮影も行えず、動画を見合う活動に至らなかった。本時の展開の中で撮影時間をしっかり位置付ければよかったのではないか。
●全体協議では、時間に限りがあり発言する先生方も制限されるので、アンケート等を実施したり、グループ協議を取り入れたりする方法もよいと思う。
●アドバイザーによる講義は大変勉強になったのだが、それによって当日の授業について協議する時間が短かったと感じた。協議の時間をもう少し増やせたらよいのではないか。
●アドバイザーの講義ではとても貴重なお話を聞けたが、準備していただいた資料について省略された部分が多く、１時間程度では短いと感じた。質問の時間も含め、もう少し時間に余裕があるといい。
●ＩＣＴ機器の活用について各市で使用している機器やソフトウェアが異なっているので授業へ活用しにくい。
●ＩＣＴ機器の活用方法についてよく精査すること。紙などのアナログな方法の方が伝えやすく伝わりやすい場合があることや生徒同士のコミュニケーションの機会が少なくなることが考えられる。

**［砺波地区］**

●通常は２クラスを２名の教師で実施しているが、今回はもともとの計画が授業者一人となっていたため、やむを得ず１クラスでの公開となった。あらかじめ学校の実態を確認する必要がある。
●本時の課題である「健康の保持増進のため」の運動の基準が難しいために、運動強度が高く体力トレーニング要素の強い運動計画を立てている生徒も見られた。心拍数等で運動強度に明確な基準を設けることで、「健康の保持増進のため」の運動をより具体的に考え、学びを深められるのではないか。
●中学生にとって「健康に過ごすために必要な運動計画」はイメージがしづらい。生涯にわたって健康を保持増進するという視点で、10代だけでなく各年代に応じた運動計画を立てさせることで、健康について考えやすくなるのではないか。

## Ⅲ　大会前の諸準備、諸会合について

・資料の編集及び事前研修会
△８月の打合せの際に指導案検討会を行うよう授業者や研究部員に伝え、その後はメールでのやりとりとすれば何度も集まらずに済む。
●経験の浅い授業者をサポートするために、郡市内で事前に検討会を重ねる必要性があった。

・資料の製本や配布　等
●指導案が事前に送られてきたものと修正があった。指導案や学習カードをもっと事前に回してもらいたい。
●今回は、指導案に修正があったため会場責任者が印刷したが、基本はデータを各校に送付し、印刷して参するかデータでもってくるやり方でよい。
●来賓等への資料４５部＋αも、役員が集まらずに部会費を使って県の副部長校で行えばよい。

## Ⅳ　研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

・運営分担や日程
●当日、運営委員が集まる時間をもう少し遅らせてもよい。特に準備等必要なければ、無理に早く集まる必要はない。駐車場も事前に資料を添付し、案内すれば当日の係も必要ない。
●協議会の張り紙やアドバイザーの先生との連絡・調整等、運営責任者と会場校のどちらが行えばよいか不明な点があった。会場校と連絡を密に取って行えばよいことだが、配布される資料に明記してあると分かりやすい。

・研究協議
●アドバイザーの講義がない地区は開始時間が遅く、部員の協議時間が大変短い。また、生徒を待たせる時間も長い。せっかくの機会なので、開始時間を早くしてもよいのではないか。
△協議①は、授業に関すること、協議②は若手教員の悩みや評価方法について協議した。協議①では、生徒の様子や発言について時間を追って付箋にメモし、指導案に貼り付けて意見を述べ合った。その後、グループごとに発表し意見交換をした。協議②では時間の都合上、グループ発表をしなかったが、砺波地区の部員が集まる貴重な機会なので、発表した方が研究成果が上がる。
△研究協議では、授業の展開や工夫に対する意見交換が多かったが、生徒一人一人の発言や生徒と教師との会話のやり取りのから今回の授業を分析するような視点を提案していただいてもよかったのではないか。
△小グループに分かれる前の全体会で、授業者に授業に対する質問をする時間があると小グループでの話し合いが深まるのではないか。

・授業力向上のためのアドバイザー講義
○大変よかった。可能であれば、配付資料等を事前にいただき、目を通した上で参加できるとより理解が深まり、質問等も活発になるのではないかと思う。

## Ⅴ　各研究部会独自の意見や要望

・県の中教研部会専門研修会をオンラインにしてもらいたい。

・欠席届内の職印を（公印省略）にて対応していただきたい。各市町村の様式の使用　を許可していただきたい。（富山市の研修会欠席届は職印省略）
・研究大会に向けての研修会をオンラインで行っていただきありがたかった。
・ＩＣＴ機器の活用について各市で使用している機器やソフトウェアを統一することで市や地区を問わず研究を進めることができる。

**＜技術・家庭（技術）部会＞**
**Ⅰ　工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと**
**[東部地区]**
○西部の授業を、録画しダイジェスト視聴することができてよかった。
○東部地区から西部地区に８名以上参加することができた。実際に授業を見ることができてよかった。
○西部大会の参加者が、授業や協議会の様子を伝えることができた。
○富山大学の林教授の講話では、高校で必須となった情報の授業内容が確認でき、中高の接続の際に必要な知識・技能を確認することができた。市によってはＩＣＴパスポートを作成し、小学校、中学校で身に付けるべき素養を明示している事例なども紹介いただいた。令和7年度大学入学共通テスト「情報Ｉ」の試作問題を解いたり、高校で「情報」を指導しておられる先生方の本音を聞かせていただいたりした。中学校技術分野・情報の現在の指導では、課題があることが分かった。
**[西部地区]**
○授業は、統合的な内容であり、市販の教材で音センサ利用した「揺れ感知システム」をつくるプログラムは、参考になる授業であった。ウェブアプリでサーバーとクライアントでつながる教材なので、効果的な教材であった。免許外で技術の授業をしていただいている先生にも参考となる内容であった。
○授業を片方の西部地区だけで行ったことはよかった。
○生活に密着した課題でよかった。
○生徒たちは、ヒントカードを使って手際よくかつ協力して作業を進めていた。
○公開授業は、情報の技術領域の教材であった。双方向に情報をやりとりするためのプログラミングをチームで行う実習であり、内容として適切であった。
○協議会として、各校の取組について、各先生が口頭だけではあるが報告するといった形式は、各校１名の本教科の現状として非常に参考となるものであった。
○班内や他のグループの様子が見られたり、学び合う姿が見られたりした。
○ある教材を生かして、課題解決に取り組む様子が見られよかった。また、教材を作るだけ出なく、その教材を生かした課題解決の取組の工夫は参考になった
○これだけのものを準備するのは大変だったと思う。また、生徒の中には自主的に課題解決に取り組む様子に、普段の先生が授業に取り組む姿勢がみられた。
○一人一台端末になったことで、実習がしやすくなった。

**Ⅱ　今後、工夫･改善が必要と思われる事項**
**[東部地区]**
●今年度授業を行わない研究大会を始めて開催した。やはり本教科においては、学校に複数名の技術教員がいることはほぼなく、校内での授業研究を行うことは物理的に困難であることからすると、せっかく西部地区で授業が実践されているのに活用しきれていないことは残念に思う。やはり実際目の当たりにする授業の参観は、録画では伝わらない雰囲気もあり、出張旅費の関係があるとすれば、各地区で集まってリモートでの授業参観であれば、生の授業は見られなくても協議会での意見交換などは行えるので効果的であると感じる。
●西部大会の授業をビデオで参観したが、生徒の様子や反応などをもう少し肌で感じたいと思った。技術部員数の減少も見据え、東部・西部合同の公開授業もしくはオンラインでの参観等も考えてはどうでしょうか。
●隔年を続けるのであれば、**<u>東西の直接交流ができるとよい</u>**。
●仮に、２年に一度東部大会を実施となれば、全県での出張であったとしても旅費は工面できるはずである。
**[西部地区]**
△今年度より、隔年での公開授業の開催なり、本年度が東部地区で授業が行われないということから、東部からの研究会への参加者が例年になく多かった。このことは日頃交流があまりない他地区の現状を知る上でもとても良い傾向であると思う。このようなことを考えると、本教科の研究大会の開催は、**<u>全県１部会での開催が適切では</u>**と考える。

●実際の傾斜センサや3軸センサ等も、手に入れやすいので、そういった実際のセンサを使うとより地震警報装置に近づけることができると思われる。
●マイクロビット等のマイコンを市費等で購入すると、いろんな工夫ができるようにおもわれた。
●事前にサーバへの接続等確認しておけば、授業中に作業を進められない生徒が出ることがなかったのではないか。
●分からない生徒用に、チュートリアルのようなものを準備することで、分からない生徒も、課題解決に取り組みやすいように感じた。また、適切なプログラムというものを、最後に確認できるような場面があればよかった。
●課題設定　地震アラームは生徒にとって身近なものでなかったと思う。
●提示装置の画面が小さく、生徒には見づらかったと思う。
●複数の課題があり、生徒が選択して取り組む授業であってもよかった。
●実際の傾斜センサや3軸センサ等も、手に入れやすいので、そういった実際のセンサを使うとより地震警報装置に近づけることができると思われる。

**Ⅲ　大会前の諸準備、諸会合について**
（①　会場郡市、会場校の決定　②地区研究会　③資料の編集及び事前研修会　④資料の製本や配布）
○Ⅲ.１～４については、今年度の運営でよいと思われます。
△今年度のように、会場地区で事前研修、会場準備等をお願いできればと思う。ただ、現在砺波地区部員が少ないように、状況に応じて他郡市も協力する必要があると思う。

**Ⅳ　研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）**
**１運営分担や日程**
**２研究授業**
△技術科は、東部・西部で分けず、全県での実施にしてほしい。
△生活に密着した問題や課題を取りあげ、解決に向けて学び合う課題追究学習を進めていく必要があると思う。そのためにも、今回のように情報交換をする場を設定していけばよいと思う。
△研究授業がない年は、部会で講師を呼んだり、昔行っていた現地研修を取り入れたりしたらどうかと考える。
○授業においては録画の視聴という方法を上手く利用して、自評を見てからの授業を見るという方法が効果的であったと思います。
○講演会、学習会として情報活用能力に関する学びは分かりやすく理解が深まったと感じています。特に高校の情報における実態がわかることで、中学技術の情報について方向性を考えるきっかけとなった。
△全県１部会も考えていく必要がある。もしくは研究発表のみもあり。
**３研究発表**
△上との関連で、訪問研修の指導案、授業で使っているワークシート、授業で使っている教材教具など持ち寄るのはどうか。
**４研究協議**
△上との関連で、情報交換的な協議をしてはどうか。東陸大会の発表があれば、前年度にそれをテーマにして研究授業や研究協議をしてはどうか。
**５授業力向上のためのアドバイザー講義**
△高校だけでなく小学校情報関係の優れた実践を行っている人を招くのもどうか。
○高校との接続の内容は自分の授業改善にもつながるとても有意義なものだった。

**Ⅴ　各研究部会独自の意見や要望**
・Ⅱでも、ふれたが、本県の技術･家庭（技術）部会の現状を踏まえると、全県で１部会の開催が、研究の成果や各校の実態を知る上でも、非常に効果的ではないかと考え、次年度以降、開催方法の検討を強く要望したい。
・Ⅱで記載したとおり、各部会の教員数や年齢構成、役職構成をしっかり踏まえた実施としていただきたい。
・養護教諭は、全県実施にもかかわらず、それよりも人数の少ない技術科で不可能なことは考えづらく、実施可能ではないかと思われる。
・今年度は、西部地区が研究授業であったが、東部地区から８人の先生方が参加していただき、たくさんの先生方で協議できてよかった。特に、市によってネットワーク環境が違うなど、参考になりまし

た。今後も、東西の先生方が多く集まって研修できるとよい。
・免許外の先生に東部地区なら西部地区の、西部地区なら東部地区の授業を見に行ってもらえるようにしてはどうか。
・今回の内容であればzoom等のweb開催でよかった。
・全県で交流できるように、**全県で集まればいい**と思う。保健部会はすでに全県です。
・これだけ部員が少ないと、**東西の区別なく合同開催の方がよい**。また、動画で見るよりも、実際に参観した方がプラスになる。
・これだけ人数が少ないと、何度も研究授業をする人が出てくるようになる。そういったことも含めて、研究授業や発表など、今後どのように割り振るのか考えていく必要がある。また、同じことが東海北陸大会でも言える。そろそろ今後のことについて検討していく必要がある。10年後から話していては遅い。
・授業者が、今回で三度目の研究授業（西部地区）だったと聞いた。技術部員の高齢化が進んでおり、単純に郡市の順番で授業者や発表者を決めることは困難な状況になっている。技術部会は、東部と西部が合同で行うことや教科外の臨時免許で授業を行っている先生方も参加できるよう、他の教科とは別の日程も検討してはどうか。
・国立大学教育学部に技術科教員免許を取得できるように、技術教育を指導できる環境を整えるように県や文科省にも強く訴えていく必要がある。これから10年以上働くのはさすがにきつい。
・西部大会の授業をビデオで参観したが、**生徒の様子や反応などをもう少し肌で感じたい**と思った。技術部員数の減少も見据え、東部・西部合同の公開授業もしくはオンラインでの参観等も考えてはどうでしょうか。

**＜技術・家庭（家庭）部会＞**
**Ⅰ　工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと**
**【西部地区】**
○研究授業ではなく、研究発表であったが、日頃の取組や授業実践、他市で進めている研究内容を知ることができ、情報交換の機会として有意義であった。
○各地区の発表がとても参考になった。授業研究はなかったが、学ぶことが多かった。
○各市の取組が見られ、今後の授業の参考になった。
○研究授業を行わない研修という形が初めてだったが、各郡市の発表や、講習会があり、充実した研修内容だった。
○ICTの活用について各地区でよく研究されている。複数の授業について、授業実践の写真を紹介した提案があり参考になった。
○砺波地区の発表のように動画の紹介等があるとありがたい。
○各地区が発表を行ったので、全ての地区の今年度の研究内容を共有できたことがよかった。
○授業にそのまま取り入れられる講義の内容であったため、実践的でよい。
○一人教科のため、教材・教具の工夫、ＩＣＴの活用例、課題の与え方等の授業づくりにおいて、とても参考になる発表であった。特に、砺波地区で活用している「幼児の特徴や生活、関わり方」についてのYouTube動画は、幼児との関わりが薄い中学生にとって有効な手段である。
○各郡市の研究内容を聴くことができた。郡市ごとに着眼点が異なっており、新しい視点を得ることができた。高岡市の発表は、市の研究大会で協議したことをしっかりと整理してあった。また、他群市の先生からの質問やアイディアから、さらに新しい視点を得ることができた。射水市の発表は、紙の絵本とデジタル絵本の比較ということで、自分にはない着眼点だったので驚いた。しかし、学習指導要領や教科書にある内容も踏まえてということで納得した。また、生徒や幼児の実態を踏まえて教材や指導内容も変化していくことが必要だと考えさせられた。砺波地区の発表は、指導と評価の計画についてと動画を活用した学習活動の工夫についてだった。特に指導と評価の計画は、あえて指導を受ける前の記述も残してあるため、計画作成上の注意点が分かり、よかった。
○北國銀行の方による講習「自立した消費者になるために正しい金融知識を学ぼう」は、あえて生徒向けのプログラムをしていただくことで、自分が教える際の参考になるだけでなく、ぜひ出前授業を利用したいという気持ちになった。また、限られた時間に、必要な知識を正しく教える上で、金融のプロである銀行の方による出前授業は有効だと思った。
○北國銀行の消費生活の講習会は、中学生の実態を捉え、かつ学習指導要領を踏まえた内容になっており、外部機関との連携を深めるよい機会となった。
○金融講座が分かりやすく、とても参考になった。
【東部地区授業】
・個別最適な学び
　○新聞の提示があることで、生徒たちの発表中で意見の根拠としてつなげることができた。
　○学習の個性化について、一人一人違う家、それぞれの家族構成で暮らしている、自分の課題を見付け解決していく過程で学習の個性化をしくんだことが、↑２で述べたことにつながっていると思います。
・ＩＣＴ
　○「ICTの活用」と一言では片づけられないぐらい、生徒たちは身近に多用できていた。
　○タブレットの操作に慣れている感じがした。学校やクラスによっては同じやり方が通じないこともあ

りそうだと思った。ICTを活用する場合は、生徒の実態をしっかり把握して、実態に応じた工夫が必要だと思った。

・思考ツール

○まんだらチャートをタブレットで上手に活用していて、生徒は楽しそうでよかった。

○富山市の部会でよく考えられていて参考になった。

○まんだらチャートを用いたことで、考えが視覚的に分かりやすく、発表する方も聞く方も理解しやすかったのではないかと思った。

○ジャムボードとまんだらチャートとの相性がよく、班の話し合いの際に、上手に活用して班の意見をまとめていた。

・主体的な学び

○災害の少ない富山県の中学生に防災対策において「自分ごと」として捉えることがとても難しいと思います今日の授業は子どもたちが「かけがえのない命」は自分の手で守らないといけないという必要感がとても身についていると感じました。家族のためにパワーアップさせたいという思いが強まった。

○事前の準備が大変よくできており、生徒にとっても自己有用感が高まる授業であったと思います。

○地域性もあると思うが防災についての意識が高く、１年生なりに課題意識をもって取り組んでいた。教室掲示が充実していてよかった。

・問題解決的な学び

○「２階に非常袋を置く理由」「水は２Lとる必要がある」などこれまでの調べ学習等で学習したことを（知識）を活かして考え（思考）していたと思います。

○班ごとにテーマを絞って自分事として学習内容を考えられる素敵な授業でした。学習活動３と４のつながりをあまり感じなかったので、４の部分に絞ってしたらより深まったのではないかと思いました。

○まとめの時に先生がキーワードを板書しておられて生徒が最後に学習を振り返やすそうでよかった。

・生活の課題と実践

○「生活の課題と実践」をどう捉えるのか改めて理解することができました。

・評価

○評価をするためのワークシートの工夫など考えさせられた。

## Ⅱ　今後、工夫･改善が必要と思われる事項

【西部地区】

●各市町村の発表内容にばらつきがあった。発表内容の統一が必要である。

●研究発表の内容はそれぞれの市で計画されたものであったので、何か統一した発表の流れの概要があってもよかった。

●提案授業のワークシート等のデータ共有ができれば、今後みんながやっていけるのでよいもではないか。

●発表の中で使用されていた教材や、日頃使用している教材等の実物を見てみたい。

●各地区の発表時間を同じ持ち時間（２０分ずつ）ではなく、地区で授業研修されたところに長く発表していただくようにして、時間を調整すればよいのではないか。

●高岡市にもっとたくさん発表してもらってもよかった。

●今年度の発表時間での３地区全ての発表は、なかなか厳しい。

●各地の発表を聞き、授業の全体を貫く課題をしっかりと持つことが大切だと感じた。

●研修と研究授業が隔年となることで、今後研究大会をどう持続させていくかを考える必要がある。

●西部地区は、来年度から現在の高岡市・氷見市の二市合同から射水市を加えた三市合同となる。また、砺波地区は砺波地区の群市合同で動いている。限られた時間の中、それぞれの市の間でどのようにコミュニケーションを図り、有意義な研究を行っていくか、やり方を考えていく必要がある。

【東部地区】

・話し合い

●付箋に考えを書くのに必死で、個人作業が多く、あまり班での意見交換ができていなかった。

・問題解決的な学習

●まとめの部分において、生徒たちの言葉でまとめられたらよりよかったのではないか。

●１時間の内容が盛りだくさんだった。個人の課題解決にじっくり向き合う場面に焦点をしぼるとよかったのでは。

・協議会

●時間の配分について、今までの慣例として、東海北陸の発表を行ってきているが、もう決定している内容にわざわざ時間をさく必要が感じられなかった。

●提案者の負担が大きすぎる。研修のやり方の見直しが必要。

●開始時刻が少し早かった。集まるのが大変ではないか。

●開始時刻が早く、終了時刻が予定よりオーバーした。今年度はアドバイザーの講義が入っていたための時間配分だと思うが、県内２部会なので、開始時刻をもう少し遅くしてもよいのではないか。

●研究協議１のグループトークの後の全体共有の時間が短いと感じた。授業者への質問の時間がなかったので、質問の時間があればよかった。

●研究協議１で授業研究と東陸大会の発表の２つを行うことに無理があったと思う。東陸大会の発表については資料配布だけでも良かったのではないかと感じた。

●１つのテーブルに３人掛けの状態だったが、やはり狭いと感じた。参加人数を考えると、テーブルをなくして椅子だけにし、ゆとりをもって座ったほうがよかったのではないかと思った。

## Ⅲ　大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

○指導案の配布はメールで添付したが、印刷・製本の手間や出張が省くことができてよかった。来年度もこの形でよい。

●研究会における検討テーマをよりよいものに。
●授業を行う地区の方に全員参加するのでよいのではないか。

●発表のためには、準備として勤務時間外に臨時の部会をひらくことになってしまう。

△会場を準備していただき、ありがとうございました。研究授業を行わない年度の会場校をどのように決めるとよいかが検討事項に思う。
○資料は２枚程度であったが、それでよいと思う。発表資料を当日に持参して配布できたのがありがたかった。
○今年度は「研修」という初めての試みだったが、部会責任者の渡辺教頭先生がリーダーシップをとってくださり、充実した研修を終えることができた。一方で、自分自身が夏季休業中に体調を崩したこともあり、あまりダイレクトに準備に関わることができず、申し訳なく思った。合同研究をしていることを自覚し、しっかりと準備等に参画したい。

**Ⅳ　研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）**
**【東部地区】**
・オリエンテーション
○オリエンテーションも省略されていても特に問題はなかったので、次年度以降もこの日程で進めればよい。
・協議会
●協議会の時間が短く、せっかくの授業についての話合いをもう少ししたかったです。いろいろと質問もしたかったです。
●東海北陸大会の発表は、省略しないでしっかりすべきと思われる。
●今年度は東部地区が、授業、東海北陸の発表、アドバイス事業と３つが重なり、協議会の時間調整に難が生じていた。東西で研究発表（授業）が交互になったことや、東海北陸の当たり年、等を総合的に踏まえ、アドバイザー事業をどちらで配置するか、今後その年の状況に応じて検討する必要がある。
●提案者、発表者は膨大な時間とエネルギーを使っているので、それにふさわしい協議会のもち方が必要である。
○授業がなかったということもあり、開始時刻には生徒も全て帰宅しており、落ち着いた環境でじっくり研修ができた。会場校のご協力があったからこそだと思うので、感謝したいと思う。
【アドバイザー・指導助言】
○アドバイザーの先生からの講義は大変有意義であった。
●アドバイザーの講義が、技術科と隔年、東西どちらかの配置となるとバランスが難しい。アドバイザーが配置される年は、他教科のように東西の両方に来ていただけるとよい。
●授業を行わない地区にアドバイザーに来ていただいてはどうか。授業研修と重ならず、しっかり指導を受けることができるのではないか。
●授業力向上のための講義では、単元に一連のストーリー性をもたせた方がよいことを知り、自分の授業で改善すべき点がたくさんあることに気づかせていただいた。
●地区での授業研修で、指導主事による指導助言をしていただいているので、今年度のように西部地区として研究授業を行わない年は、指導主事をお呼びしなくてもよいのではないか。ただし、東海北陸大会の前年度は、助言があるとありがたい。
【東西交流】
●東西交流は、一人教科にとって大切な機会である。ＺＯＯＭ等、オンラインでの参加もできるようになるとよい。
●隔年で授業と発表、アドバイザーは授業の地区でとなると、西部地区にはアドバイザーが来ないことになる。部会の実状を考え、保健部会のように、東部と西部を一緒にすることはできないのだろうか。
【運営】
●発表になると市の授業をしてから日数が短く、集まってまとめていくのが大変である。

【その他】
○多くの先生方に支えていただき貴重な機会となった。学びの多い研修会であった。

**Ⅴ　各研究部会独自の意見や要望**
**【研究大会の在り方】**
△若手教員からは、「ここ数年のコロナ禍で研究授業に参加する機会が少なかった。一人教科にとっては年に一度の貴重な機会であるにも関わらず、さらに授業を参観する機会が減った。」「小学校採用枠で受験したのに、中学校家庭科教員として配置された。家庭科の授業経験がほとんどないため、授業見学の機会を増やしてほしい。」との声も聞かれる。研究授業は東西交互に開催し、保健部会のように県内で一つの会場に県内の部員全員が参集できないか検討する必要がある。
△負担軽減のため教科独自の運営方法を考えていく時期だと思う。
【予算について】
△今回、西部地区で実施した研修会において、講師に来ていただくには金銭的な課題があった。無料で来ていただける方となると限定的になるため、講師謝礼の補助があるとありがたい。

**＜英語部会＞**
**Ⅰ　工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと**
**［新川地区］**
○場面設定が分かりやすく、積極的に参加する生徒が多く見られた。
○タブレットを使い、必要に応じて確認することによって、自分の発表をよりよいものにしようとする姿が見られた。
○講演会では、小学校の視点からの話を聞くことができて有益であった。

○授業→協議→講演会の流れがよいと思った。
○今英語教育が大切にしていることや新しい課題に挑戦していることを知り、大変勉強になった。

**［富山地区］**

○２学年と３学年の２つの研究授業を提案いただいた。目的や場面、状況の設定を明確にし、英語を用いて自分の考えを伝えあう言語活動を工夫して行われており、授業改善の視点をあらためて確認することができた。
○部会協議①では、主にグループ協議を中心に実施した。２０分程度の協議時間であったが、活発な話合いが行われ、参考になったこと、改善策や提案等、多くの意見を共有することができた。
○中間評価をより効果的なものとするために、生徒の取り組みのどの点がよいのかを明確に取り上げて賞賛すること、思考・判断・表現の育成にあたり、板書にモデルを残し続けることで、生徒の活動を阻害してしまうこともあること等を具体例を交えて指導助言いただいた。
○部会協議②は「授業力向上のためのアドバイザーによる講義」として、文教大学　教授　阿野　幸一　先生に講演をいただいた。研究授業についての講評、学習指導要領をふまえた英語の指導と評価について、研修会や大学生のエピソードから教えていただくとともに、言語活動の充実にあたっての工夫、音読の効果等、多岐にわたって具体例をもとに教えていただき、大変有意義な時間となった。

**［高岡地区］**

○「小学校時代のALTに現在の成長を伝える」という明確なねらいを立てたことで生徒の今の状態を伝えようとする意欲を高めることができていた。
○高岡のイオンモールという実際に生徒達がよく利用する場所での案内ということで言語使用場面を具体的にイメージすることができていた。
○中間発表を入れて、自分の表現を振り返る機会や様々な表現に気づかせる機会を設けることの大切さがよくわかった。
○アドバイザー講義は有益であり、教育的見地が広がりました。このような機会は今後も続けていけばよいと思います。

**［砺波地区］**

○帯学習、マッピング、ペア活動の効果について学ぶ機会となった。
○帯学習の対話で扱った表現を、スピーチの際に参考にする生徒がいた。単元の見通しをもった帯学習となっていた。
○マッピングを用いることで、コミュニケーションの見通しをもたせたり、即興的に話す力をつけたりすることにつながる。
○ペアを数回変えたことで、生徒はスピーチ練習に繰り返し取り組むことができ、よりよいスピーチに向けて自己調整ができた。また、互いのスピーチをタブレットで録画することで、課題や変容に気付くことができた。
○「１４歳の挑戦」で学んだことや今後がんばりたいことを伝えるという、単元のゴールが明確に示された指導案であった。
○自分が「１４歳の挑戦」を通して実際に体験したり、考えたりしたことを基に課題に取り組むため、生徒たちは意欲的に活動していた。
○スピーチを動画で撮影することによって、生徒は自分の発表の様子を繰り返し見ることができ、よりよい発表に向けての改善につなげることができた。
○研究授業で、ICTを活用した「話すこと」の授業を参観し、協議した。これまでの研究授業等で指摘・指導を受けた点（評価の視点を生徒に分かりやすくすることや、教師がファシリテーターになること等）が改善されていた。
＜部会協議について＞
○小グループに分かれて授業の参考になる点や改善点等を話し合った。少人数であったため、話合いが活発に行われた。
＜とやまグローバル人材育成促進事業について＞
○学習指導要領を踏まえた効果的な指導と評価の在り方について、事例等を交えながら分かりやすく教えていただいた。

## Ⅱ　今後、工夫・改善が必要と思われる事項

**［新川地区］**

●理解できていない子に対する支援
●TTにおけるT2、T3の役割分担
●ICTの活用方法　必要感のある場面で活用すべきだった。
●指導案は事前に検討されたのか疑問に感じられた。
●近年定着しつつある”振り返りシート”だが、どの視点で・どの内容で振り返るのか規準を明示すべきである。
△中間指導の在り方について。
△幅広い動詞や表現を使えるような課題の設定や授業展開について。
△若手の授業が続いているが、もう少しベテランの先生の授業を見たい。若手の育成にもつながると思う。

**［富山地区］**

△部会協議①は、授業者の自評５分→グループ協議２０分→共有１０分→指導助言１５分、という流れで行った。研修の流れとして定着している形である一方、１授業あたり約５０名弱が参加するため、授業提案者との意見交換を十分に行う時間が確保できない面があった。部会協議②の講義の時間確保も必要なため、端末を活用した意見共有を取り入れるなど、授業をもとにした協議の在り方を今一度検討する必要がある。

**［高岡地区］**

●研究授業の開催時期が変わらないままだと、毎年単元が似通ってしまう。活動や工夫についてもある程度出尽くしてしまっている印象があるため、開催時期の検討も必要だと考える。

**［砺波地区］**

△ペアでの活動は主体性が高まるが、中間評価で適切な表現について生徒と共有したり、最後に話した内容を書かせたりするなど、言語面の指導も組み込む必要がある。

＜研究授業について＞

△活動中の生徒へのアドバイスは、JTE・ALTともに、活動のねらいに沿って行うことを徹底する。それが模範となって、生徒同士のアドバイスも活動のねらいに沿ったものになっていく。

●本時の課題はスピーチをよりよくするために、分かりやすい表現を生徒同士で学び合うことであるが、どのような表現が分かりやすいのか、生徒と共有する必要があった。

＜部会協議について＞

●とやまグローバル人材育成促進事業の講義の関係で、グループ協議の内容を全体で共有する時間が取れなかったが、各グループで書いた模造紙を見て回るなど、短い時間でも協議の内容を共有する方法はあったと思われる。

**Ⅲ　大会前の諸準備、諸会合について**
**会場校の決定、地区研、事前研、資料など**

［富山地区］

●１　会場郡市、会場校の決定

市内中学校の規模や教職員数をもとにローテーションを決めているが、異動等による状況の変化や他教科とのバランスに配慮する必要がある。

○２　地区研究会

今年度は、７年に一度の東海北陸公立学校英語教育研究会への協力もあり、限られた時間での指導案検討となったが、地区研究会の時間を有意義に活用することができた。

○４　資料の製本や配布　等　　データ配信となり、大変やりやすくなった。

［高岡地区］

△事前研修会での打ち合わせ内容について、事務局の方から部会責任者に事前に知らせておくと、部会責任者が見通しをもって打ち合わせに臨めると思います。

**Ⅳ　大会当日の運営や内容について**
**日程、授業、発表、協議、アドバイザーなど**

●基本的には数年前に見直していただいた現在のローテーションでよいが、西部地区大会と砺波地区大会が重なる年度もあり、市によって会員の数や経験年数の差があり負担にも差がある。

［新川地区］

△時間が足りないと感じたので、協議の進め方を検討する必要がある。

○小学校の先生にも参加していただいて、貴重な話を聞くことができた。

○参観者の人数も配慮され、体育館で実施されていてよかった。

○授業者の負担もあると思うが、二つの学年にそれぞれ提案授業があれば参観者の学びにつながる。

○即興でのやりとりに視点を置いた授業は難しい中、チャレンジされていてよかった。

○授業の場面設定が、生徒たちにとって身近で現実味のあるものであった。

○１時間の中で、生徒が多く発話していた。

○タブレットの活用に工夫が見られた

○ルーブリックについての見識が広がった。

○グループ協議の時間が短く感じられた。

○グループでの付箋を用いた協議が話しやすくよかった。

●指導助言をもう少し多く聞きたかった。

●協議した内容（付箋を貼った紙等）を共有してほしい。

５　授業力向上のためのアドバイザー講義

○大変よかった。小学校の授業参観（もしくは動画の視聴）とセットだとなお実感するものが多かったかもしれない。

○「手ぶらでおしゃべり」や「ペア活動前の一人でブツブツ練習」等、具体的な手立てを知ることができた。

○小学校英語についての本音や現状を知ることができた。

●小中連携についてはある程度わかったので、異なるテーマのものをご講演いただきたい。

○小学校英語の指導の現状や課題を知ることができてよかった。小学校で身に付けてきた知識（特に音声）や培ってきた意欲をさらに高められるように小中連携を進めていきたい。

［富山地区］

△３　研究発表：アドバイザー及びグローバル人材の講義があり、研究発表の機会がなくなっている。負担減の一方、研究をまとめ発表する機会がなくなっており、市の部会等で工夫しながら進めていく必要がある。

○５　授業力向上のためのアドバイザー講義

これまで、県部長が送迎を担っていたが、今年度から事務局で交通費を負担していただき、公共交通機関の利用となり、大変ありがたかった。継続して取り組んでいただきたい。

［高岡地区］

●研究授業の内容等、７月に事務局に提出しなければならないのは、授業者の負担にもなると思います。もう少し遅くできないでしょうか。

△アドバイザー事業の打ち合わせについて、講演者との打ち合わせの範囲を、事務局と部会責任者で共通理解を図ればよりよいと思います。

［砺波地区］

●グループ協議で活発な意見交換が行われているが、日程的に十分な時間を確保することが難しい。設定時間内で研究主題に迫るために、視点を明確にして協議を進める必要がある。

○とやまグローバル人材育成促進事業による瀧沢先生のご講演は、言語活動の在り方や、子供の主体性や表現力を高める工夫について学べる大変有意義な内容だった。

△各自がプリントアウトする現在のやり方を継続してほしい。

**Ⅴ　各研究部独自の意見や要望**

［砺波地区］

１　運営分担や日程

△アドバイザー講義の時間を確保しなければならないが、学校の立地場所によっては、研究授業の開始時刻を遅らせる必要がある。または、早めに学校から発つ必要があることをそれぞれの教科、学校で共通理解していきたい。

２　研究授業

●それぞれの授業で工夫点が多く参考になるが、似通った形式の発表が続いている。

３　研究発表

●「とやまグローバル人材育成促進事業」により、瀧沢広人先生の講義があったため、研究発表はなかった。発表準備にも時間が必要となるため、研究発表の有無については今年度同様に早い時期に知らせてほしい。

５　授業力向上のためのアドバイザー講義

○いつも参考にしている先生の講義を直接聞く大変よい機会であった。今後もアドバイザーによる講義を受講したい。

〈その他〉

△継続的にCanDoリストの活用と見直しを行っていかなければならない。小矢部市で共通のリストを作成し利用しており、会員が集まる機会に情報交換を行っていきたい。

**＜道徳部会＞**

**Ⅰ　工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと**

**［東部地区］**

○テキストマイニングがとてもよいツールだった。本時のねらいとする価値に関する事前アンケートが提示され、価値への関心が高まり、展開へとスムーズにつなげることができていた。また、生徒の思考が可視化され、自分と他者、授業前と授業後の考えの比較がしやすいと感じた。テキストマイニングの効果的な使い方を研究したい。

○範読前にあらすじを紹介していた。前もってあらすじや登場人物を整理することによって、どこに注目して読めばよいのか分かりやすかった。読むのが苦手な生徒への支援にもなっていた。

○登場人物のイラスト等を適宜用い、心が近づく様子が視覚的に分かる板書だった。

○若手の先生の時代に合わせた新しいものを積極的に取り入れる姿勢に刺激を受けた。

○補助発問や生徒の意見についての問い返しが多く取り入れられていた。

**［西部地区］**

○個人→グループ→全体→個人と学習形態を変えることで、多様な意見に触れ、考えを深めることにつながっていた。

○役割演技には視覚に訴える効果があった。発問前に役割演技を取り入れたことで、登場人物の気持ちに共感できていた。

○時系列に沿った、心情の変容が把握しやすい板書であった。

○事前に行ったアンケート結果を終末で確認させることにより、自分との関わりを考えながら振り返りを行うことがでていた。

○電子黒板が視覚的な支援になっていた。どのような場面かを生徒が想像しやすい効果的な配慮だった。

○発問の数をしぼることで、考えを深める時間がしっかりと確保された。

○実際に教室の電気を消し、歓声を上げ、拍手があふれる場面を実演することで、登場人物の気持ちを想起させることができていた。

○指導と評価の一体化については、どちらの授業も「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」を具体的に想定した指導案になっていた。

**Ⅱ　今後、工夫･改善が必要と思われる事項**

**［東部地区］**

●教師と生徒一対一の対話や意図的指名が多かった。グループで意見や考えを共有できる場面があばもっとよかった。意見の深まりにもつながると思う。

●終末でテキストマイニングを用いる場合は、生徒が入力する時間を確保する必要があるので注意が必要である。

●生徒の考えの深まりは、テキストマイニングだけでは示しきれるものではないことを理解しておく必要がある。

**［西部地区］**

●資料をなぞるような学習展開になっており、生徒同士が議論するような場面がなかった。考え議論する道徳への転換が必要である。

●板書で登場人物の関係を提示するなど、内容理解の手助けとなるよう板書の工夫が必要である。

●もっと意見交換をする時間があってもよかった。それから再考する場面をつくれば、さらに多面的・多角的に考えが広がったと思う。

●中心発問で、登場人物の行動の意図を深く考えさせたかった。生徒の発問に切り返しの発問を行えばより価値に近づけたと思う。

●役割演技を取り入れる場合は、道徳的価値について考えを深めることができるよう、場面を吟味する必要がある。

●全体発表の場面では、友達の意見を聞いて新たに気付いた点や、考えが変容したところを発表してもよかったのではないか。

**Ⅲ　大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）**

（①　会場郡市、会場校の決定　②地区研究会　③資料の編集及び事前研修会　④資料の製本や配布）

３資料の編集及び事前研修会

○著作権の関係で教科書の資料は研究発表資料には掲載せず、当日受付で配布している。今後もこれを継続していくとよい。

●資料の事前配布がなく、郡市によって教科書が違うため、資料を事前に読んで参観できない。

**Ⅳ　研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）**

（①運営分担や日程　②研究授業　③研究発表　④研究協議　⑤授業力向上のためのアドバイザー講義）

１運営分担や日程

○会場校の先生が手伝ってくださったので、大変助かった。

○担当地区や会場校の先生方でスムーズに運営されていた。

●遠方の運営委員が早めに集まるのは厳しい。

●学校行事は地域によって時期が異なるが、日程について検討が必要である。

●担当郡市で運営を行ったが、氷見市では部員が少なく、一人一人への負担が多かった。役割を減らすか、他郡市からの協力がいただける体制づくりが必要。

２研究授業

●授業会場がもう少し広いところならよかった。教室に入れず、生徒の様子がよく分からなかった。

４研究協議

○４人程度の少人数グループで行った。視点をしぼり付箋を使ったフリーカード方式は、よかった点や工夫が必要な点を出しやすく、多様な意見が出され、充実した話合いになった。

●せっかくの授業に対して、グループ協議が短く残念であった。もっと協議を深められると思う。

●指導助言２０分、授業者の自評、各グループの協議内容の共有などを行うと、グループ協議の時間が確保できなかった。より深く協議するため、グループ協議の時間を長めにとることはできないか。

●アドバイザーの講義があるため仕方がないが、協議会全体の時間を延ばす方法はないか。

●限られた時間の中で何ができるかを考えたとき、アドバイザー事業だけの年、研究授業だけの年というように隔年で交互に開催してもよいのでは。（働き方改革の視点からも）

５授業力向上のためのｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ講義

○道徳の授業づくりと評価について学ぶことができた。大変有意義な機会であった。

○道徳の時間の重要性を改めて感じた。今後も道徳の時間を学びの充実した時間になるよう努めたい。

○様々な例を示しながら説明してくださり、興味をもって講演を聞くことができた。

○ローテーション道徳だけでなく、リレー道徳という形も取り入れてみたいと感じた。今後の校内研修会で提案したい。

●アドバイザー事業は有益ではあるが、協議会との時間配分をもう少し見直してもよい。

●たくさん教えていただいた。ただ、遠方より参加している方も多く、終了時刻への配慮が必要。

**Ⅴ　各研究部会独自の意見や要望**

△評価文例、ワークシートの共有など、他郡市との連携をすすめることができればと思う。

△隔年開催を検討して欲しい。

△開催に関連する出張は、できるだけリモートや資料配布で行って欲しい。

△有名な講師の先生の飛び込み授業なども見てみたい。

△最近は若手の研究授業が多い。若手だけではなく、指導力の伴ったベテランの先生による研究授業も見てみたい。

**＜特別活動部会＞**

**Ⅰ　工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと**

**［東部地区］**

○自分たち自身で提案している意見であったため、どの生徒も自分の問題としてとらえ、参加することができていた。

○生徒が主体的に話し、クラス全体が意見を否定せずに最後まで話を聞いており、安心して発言でき

る雰囲気ができていた。普段の学級指導が行き届いている証拠であった。
○生徒への事前アンケートを踏まえ、さらに視点を焦点化させた学活であったため、どの生徒も自分の問題としてとらえ、なおかつ話しやすくなるような工夫がされていた。
○一人一人の意見が大切にされており、全員参加型の授業になっていた。
○ロールプレイは、生徒にとってはハードルが高い活動であるが、教員が演じたビデオを最初に視聴することで、生徒にとって取り組みやすくなった。
○ロールプレイを用いていて、生徒は、考えやすかった。
○ロールプレイを活用することで、反省⇒振り返り⇒相談⇒発表の活動の流れができていた。
○生徒たちが大変よく頑張っていました。司会者含め、学級全体で活発に話し合う雰囲気が浸透していた。そのような学級風土をつくるにあたり先生方の様々なアプローチや指導がなされていると感じた。
○どのような指導の経緯があって現在に至ったのかに関する質問が多くありました。部会協議を通じて、実践していきたい気持ちの反面、実際に特別活動を仕組む時間を設定することが現状では、厳しいという意見が多くありました。
○話合いの目的がはっきりしていることで、生徒が活動をイメージしながら主体的に取り組んでいた。
○司会の女子生徒が全体の様子を見ながら進めることで、活発な話合いが展開されていた。
○動画で例を示すことで、失敗しても大丈夫という安心感から積極的に活動に取り組めていた。
○全体的に和気あいあいとした雰囲気のクラスで、ほとんどの生徒が活動に取り組めていた。
○「人生の構成」の6つの設定がちょうどよく、生徒が取り組みやすい活動となっていた。
○生徒の興味をひく導入であった。また、付箋を用いた活動は、発表が苦手な生徒にとってもよかった。
○生徒が考えやすく、話しやすいテーマだったため、生徒同士で活発な意見交流ができていた。
○話合い活動がスムーズだった。日頃の学級経営や指導の仕方がきちんとされていると感じた。
○話合い活動の流れが視覚的にわかりやすいものだった。
○導入の動画が温かくおもしろいもので、生徒の興味・関心を引き付けていた。明るく、元気にロールプレイングをする動機付けになっていた。
○事前にアンケートをとり実態を捉えることで、課題を焦点化する工夫が見られた。
○学校・学年単位で目標や方針を設定し、継続的に指導を行うことで生徒の人間関係がよりよくなったり、合意形成や意思決定の話し合いが充実したものになったりして生徒の生活がより豊かになるという意見があった。
○部会研修では、各校の見通しをもった実践について知ることができ、自校でも実践していきたい。
○一つの特別活動の指導の仕方として有効であった。
○模造紙や付箋（年代別に色分け）が使用され、他者との意見交流が円滑に行われるよう工夫されていた。アナログの良さが発揮されていた。
○話合いの際に、多数決で物事を決めなければならないという場面になったときに少数派の意見をどう扱っていくかということが話題になった。
○意見を大切にするような教員の声掛けや活かし方について、たくさんの意見交換が行われ、大変有意義な時間となった。今後の実践に活かしていきたい。
○教員のタブレット利用と、アナログの活動が組み合わせられており、どちらのよさについても考えることのできる授業であった。
○全体的なタイムマネージメントがきちんとされていた。

**［西部地区］**

○班毎にまとめた進路選択の条件を比較できるようホワイトボードに掲示したり、進路選択のキーワードをランキングにしたりするなど、進路決定に向け、大切なことを振り返るためには、十分に効果があった。
○教師の現在の仕事に至るまでの説話が進路決定に向けて、本時に学習したことが重要なことであることを再度認識することにつながった。
○動画を見たり、ロールプレイを実際に行うことで、課題解決に対する意識の高揚につながった。
○広い会場で、個々の生徒のつぶやきや活動など、参加者には、しっかりと参観することができたため、授業後の協議会も、活発に意見交換ができた。
○１年生と３年生の２学級で授業が公開されたが、事前に協議会に参加する学年を決めておくことで、授業後は円滑に協議会に入ることができた。
○導入で架空の人物を設定したり、学級の生徒が演者となったロールプレイの動画を視聴したりすることで、生徒同士の話合いが活発となっていた。
○生徒たちのアンケート結果に基づいた議題設定や、学年や時期に合わせた題材設定がされたことにより、生徒にとって必要感のある特別活動の時間となっていた。
○事前にアンケートをとり、その結果から課題設定につなげたことで生徒は自分事として課題をとらえることができた。
○導入で映像を見せたことで、ロールプレイのイメージがしやすくなった。
○ロールプレイの効果的な活用と意思決定につなげる手立て。
○クラス内で4つの目標を設定することで、行動目標が具体性のあるものになった。
○合意形成について深く考えたことで、「多数決＝悪」ではないことを知ることができ、クラスや状況において合意形成の方法は変化するものであることに気付くことができた。
○２つの授業とも、充実したもので、協議会でたくさんの意見交換がなされた。
○部会協議①では、グループによる協議を取り入れた。若い先生方も多くおられたが、グループ協議の成果からか、２つの部会とも、活発に意見交換がなされていた。部会協議①の時間をもう少し長く設定したい程であった。部会協議②も含めて、充実した研究会となった。

## Ⅱ　今後、工夫･改善が必要と思われる事項

［東部地区］

●付箋を年代別ではなく項目ごとにする、班ごとに１つのテーマを割り振る等、展開には様々な方法がある。複数のパターンで取り組むことが教員の授業力向上にもつながるのではないかと感じた。
●班で話合いを行わせている間に、教員から司会者の生徒へさりげなく助言をしてやるとよかった。
●ロールプレイの後、生徒に感想を求める時間がなかったが、どうだったかを振り返らせる時間を取りたかった。
●生徒も興味を引く題材で、楽しく話し合い活動に参加していたが、考えを深める時間が少なかった。・生徒が深く考える時間を、もっとじっくりとれるよう工夫できればよい。
●ロールプレイが効果的である反面、配役決めにあてる時間がもったいないように感じた。円滑に活動に入れる工夫があるとよかった。
●最後のフィードバックの時間がとれなかったので、教師のタイムマネジメントが必要。
●学級活動をする上での基準が多すぎると、生徒の活動に制限がかかるおそれがある。
●活動後の振り返りが必要であり、班役を決めるときに時間を設定すれば、時間を確保できた。
●まとめで、生徒から”相手から”という相手意識の視点が出てきたらよりよかった。
●導入の動画を見てよい点や悪い点を考えさせることが、生徒が活動を考えるときに必要である。
●最後の振り返りに時間をかけられなかったので、前半は時間を決めて進められたらよかった。
●付箋の色をテーマ別で分けていたが、年代で分けると分かりやすかったかもしれない。
●最後の振り返りでは、授業のねらいの達成度が評価できる内容を記入させる工夫が必要である。
●授業時間中に課題が解決できるような流れを工夫すべきだと感じた。
●和気あいあいとロールプレイを行っていたが、締まりがないように感じられるときもあったので、指導が難しいと思った。
●同じ会話を繰り返すよりも、自分たちで考えるセリフなど表に出るとよいと感じた。

［西部地区］

●今回の課題を解決することがいかに大切なことであるかについて明確に示してあげれば、目的意識をもってこれから取り組んでいけると思った。
●自分なりの進路決定の根拠をさらに深く掘り下げるための時間配分や掲示を工夫することで、自己決定が確かなものになったのではないか。
●両方の研究授業に興味があったので、時間をずらすことや、どちらか選んで自由に参加できる機会があってもよいかと思う。
●アンケート結果から分かることを生徒に投げかけ、生徒の気付きから課題につなげたら、生徒により課題意識をもたせることができたのではないかと思う。
●ICTを活用し、効率のよい発表や板書、学びの構築をすべきだと考える。
●学級活動は生徒が中心となって進めるものであり、教師主体ではない。生徒が必要感を自ら感じ、主体的に話合い活動がなされるための手立てについてさらに研究を進める必要がある。
●授業の中での取り組みだけでなく、その前後の取組も含めてＰＤＣＡサイクルを意識することが大切である。事前、事後の活動にも留意して研究活動を進めていく必要がある。
●生徒自身が課題を発見したり、活動を振り返ったりしながら、ＰＤＣＡサイクルにのっとって、活動が行われていけばよりよいと感じた。先生主体となって授業が行われている場面が多く感じた。
●ＰＤＣＡサイクルを意識し、授業だけで終わらない継続した取組。

## Ⅲ　大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

### １会場郡市、会場校の決定

［東部地区］［西部地区］

・開催郡市については、申し送りにつき、決定。会場校は、前年度に決定済み

### ２地区研究会

［東部地区］

○会場への案内図や駐車場の図示など、分かりやすい案内で会場へスムーズに足を運ぶことができた。

### ３資料の編集及び事前研修会

［東部地区］

△他地区と協力して、研究会や大会の準備を進められたらよかった。

［西部地区］

○開催郡市部長を中心に、各地区郡市部長を取りまとめ細部にわたって計画的に進めることができた。
○西部地区の部会が先に行われ、指導案検討に参加させていただきました。そのため、市の部会でも情報を共有することができました。

### ４資料の製本や配布　等

［東部地区］

○これからも事前に資料をメールで配布し、各自で印刷して持参する形式でよいと思う。
○事前にメールで配布していたので、問題はなかったように思う。

［西部地区］

・砺波地区の先生方を中心に、諸準備等すすめていただきました。ありがとうございました。

## Ⅳ　研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

### １運営分担や日程

［東部地区］

△授業参観者数のアンバランスさが気になりました。時期的にどうしても１，２年生担当の先生方が参加されることが多いので、担当学年で振り分けるのではなく、機械的に振り当てたり、各郡市でバランスよく配分してもらうなど、工夫が必要だと思います。

△富山市幹事のみで運営の分担をしたので、人数が不足していた。

［西部地区］

△13:25の授業開始(受付13:10～13:25)は早いと感じた。移動に1時間近くかかったこともあり、昨年度同様14:00の授業開始だとありがたかった。

△授業後の日程を考えると仕方がないとは思うが、部会協議①の時間が短く、慌ただしい印象だった。時間をかけて準備をし、授業を提案してくださった先生方や指導助言の先生のお話をもう少しじっくり聞きたかった。

### ２研究授業

［東部地区］

△最近は各校代表者による参観であるが、多くの教員で実際に授業参観できる方がよいと感じた。

### ３研究発表

［東部地区］［西部地区］

・なし

### ４研究協議

［東部地区］

△３つの学年部会の人数にばらつきがあったので、事前に人数調整する必要がある。当日、人数の少ない３学年部会では、互いの意見が多く交流する協議であった。

△協議会後の研修について、どのように進行するのか事前に教えてほしい。最初の１時間は、授業の協議だったが、後半の１時間は自校で行っている特別学習の活動についてグループ協議だった。今後は、協議会をどのように持つ予定なのか、具体的な方法を会員に知らせておくことが必要ではないか。

△今回はアドバイザーによる講演がなかったため、部会協議が二回ありました。特に後半は、少し間延びしてしまう班もあったので、協議内容をもう少し増やしたり、シェアリングの方法を変えたりして部会協議のさらなる充実を図れたらよいと思いました。

△研究協議①も②も似たような内容になってしまい、司会の先生も苦しかったように思います。特に３年生の参加者は人数が少なかったため。①は授業に関することでよいと思うのですが、②は部会メンバーを変える、話し合いのテーマを明確に変えるなどすればよかったと思います。

△話し合うテーマが少し不明確で、討議となっていないグループがあった。

○他校や他地区の先生方の実践を聞くことができ、自分の実践にも取り入れることができそうな話題が多く、よい協議となった。

［西部地区］

△グループ協議の時間が、全体共有の時間も含めると少ないように感じた。授業者の為にも、授業について協議する時間をしっかり確保したい。

○小グループによるＫＪ法を活用した協議形式をとったことで、参加者全員が、主体的に研修をすすめることができた。

### ５授業力向上のためのアドバイザー講義

［西部地区］

△研究大会が西部地区、東部地区と同日開催のため、1年おきの講義のため、リモートで中継するなどして、他地区でも聴くことができるようにしてはどうか。

○講師の先生には、講義内容をこちらからの要望に合わせて講義していただけるのでよかった。

○アドバイザーの先生の出迎えや案内等をしてくださり、会場校や運営委員がそれぞれの仕事に集中しやすく、助かりました。

## Ⅴ　各研究部会独自の意見や要望

［東部地区］［西部地区］

△特活部会に所属する先生方が毎年変わることが多く、継続研修が難しい。

△若手教員など参加者を増やして、多くの先生に研修の機会を設ける。

## ＜特別支援教育部会＞

## Ⅰ　工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

［東部地区］

○ICT機器の効果的な活用、イラストを用いた視覚化がよかった。

○ICTの活用によって互いの意見が形に残るため、考えを深めやすかった。

○自分の考えをタブレットに入力させることで、書くことに抵抗がある生徒でも自分なりに入力できるのでよいと思った。

○生徒の特性に応じた教材・教具・ICTの活用に工夫が見られた。（ヒントカード、タブレット端末への入力による自己表現）

○道徳の授業を参観することができたことがよかった。

○生徒の実態に合わせた授業の構想をすることは効果的であることが分かった。
○第1回目の指導案検討から、様々な改善や工夫がなされていて、いろいろなことに取り組めることができるということが分かった。
○生徒の心を育む様々な方法を話し合う機会となった。
○研究授業では、教師と生徒の人間関係のよさが伝わってきた。生徒は、安心して授業に取り組んでいた。途中、解説をアナウンスされたのはよかった。
○在籍生徒の特性を配慮して、事前に録画したものを視聴する参観方法であったこと。
○研究授業が事前に録画されたものであったので、生徒の負担が少なく、授業の雰囲気も伝わった。
○教師、生徒の発話内容が比較的鮮明に聞き取ることができた。
○講演では、講師の相談員としての長い現場経験に基づいた知識や思いを知ることができ、大変参考になった。
○学校関係以外の機関から、講師を招いて講演してもらったことがよかった。
○講師の方の講話が秀逸であった。特別支援初心者にも分かりやすく、現場の声も伺うことができて大変貴重な機会となった。

［西部地区］
○生徒の実態を十分にとらえ、個々の生徒の目標を設定し、教師が適切な手立てを行うことで、生徒は意欲的に取り組んでいた。
○ゲーム的要素や生徒自ら選択する場面等があり、コミュニケーションを楽しみながら行っていた。
○リモートでの授業参観であったが、生徒の活動の様子が分かるアングルでカメラが設定されていてよかった。
○質問の手がかりとなるカードが用意されていてよかった。
○教師がホワイトボードを用いて、生徒が発表する質問内容をサポートしていたのがよかった。
○授業を配信し、参観者が別室で視聴することができた。２方向から撮影した映像をスクリーンと大型モニター２台に分けて視聴したことで、約７０名の参加者がより細かく授業の様子を観察することができた。
○事前に観察する生徒を決めて授業を参観したことと、参観者をグループ分けして司会者と発表者を決めておいたことによって、短い時間ではあったが深い協議ができた。

## Ⅱ　今後、工夫･改善が必要と思われる事項

［東部地区］
●使用された道徳の資料が授業者がねらった内容項目に合っていたのかどうか考えさせられた。使用した資料だと「友情・信頼」と「情報モラル」の２つを考えさせなければならないのではないか。
●ポイントとなる生徒の発言をクローズアップできたらよいと思った。
●グループ協議でのグループ分け方法や話し合いの内容について。
●授業者が欠席のときの運営をどうするか。
●カメラの配置方法を（差し支えなければ）生徒の表情が見えるアングルにしてもらえると、学びに向かう姿勢が見えてよかった。
●時間配分は綿密に行ってほしい。講演が長くてもよいので、あらかじめたっぷりと予定時間をとっていただきたかった。
●実施を他教科に日に合わせ、全員が参加できるようにすること。
●ICTのトラブルを想定して、予備のデータやバックアップの復旧など、臨機応変に対応していくことが必要だと思う。
●授業を録画してあるので50分全てを視聴しなくても、説明したい部分だけを見せて、授業の工夫、改善点、生徒の学習状況等を説明できるのではないか。今回は欠席されたが、授業者が録画を見せながら説明があると分かりやすい。
●協議するには、体育館は広すぎて、授業視聴についても合っていないと感じた。ランチルームぐらいの場所がよいと感じた。
●授業者や準備する側の負担軽減が必要かと思います。
●特別支援級の道徳の題材の選び方。何を目的にするかを絞り込み、それが生徒に伝わるようにしなければならないこと。
●研究授業では、板書の工夫と、イラスト等の資料の提示を工夫すればよかった。教師が資料を音読してもよかった。（ＩＣＴの効果的な利用）
●協議会の時、グループごとの意見交換はよかったが、指導助言の講話のスピードが速くてなかなかついていけなかった。もう少し時間の余裕があればよかった。

［西部地区］
●在籍５名の学級であったが、３名のみの参加であった。１名は不登校傾向のため欠席、あと１名は事情により別室で過ごすことになった。特別支援学級の生徒の場合には、配慮が必要なケースが多く、なるべく生徒に負荷を与えないように事前に録画した映像を視聴するということも実態に応じて柔軟に考えていく必要がある。
●リモート配信のための機器設定や操作等で、会場校や運営委員の負担が大きくなっている。

●音声が聞きとりにくいのが最大の難点だった。会場では、ポータブルアンプを使用していたが他に方法はなかったのか？
●授業では、直接大勢の参加者が授業会場に押し掛けるのではなく、別室にてチームスの遠隔会議システムを使用して視聴した。USB type-C接続の外部マイクを音源の近くに置き、タブレットにつないで使用する予定だったが、会場校で使用しているタブレットにtype-CのUSB端子がなく使用できなかった。
●映像については、黒板に書かれた文字がつぶれて読めなかったという声が聞かれた。ビデオカメラをHDMIキャプチャー経由でタブレットにつないで、適宜ズーミングを行えば解消できると思われる。

**Ⅲ　大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）**

１会場郡市、会場校の決定
・特になし
２地区研究会
・特になし
３資料の編集及び事前研修会
４資料の製本や配布　等

［東部地区］
○現在のようにペーパーレスがよい。幹事の負担がかなり減らせる。
●グラウンドへの入り方が分かりにくかったので、周辺だけの拡大図があったらよかった。
△前日に幹事が会場校に集まったが、ビデオ撮影時にある程度、打ち合わせ、確認ができていたので集まらなくてもよかったかもしれない。
●夏休みに行われる地区研究会に今年度は参加できなかった。これに参加しないと大会の授業の詳細や進捗状況が分からず、９月の市で行われる中教研で大会の授業の事前研究ができない。他地区の部長が地区研究会に参加できないのなら、せめて研究授業の資料やこの時点で授業について分かっていることを知らせてもらえるとありがたい。

**Ⅳ　研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）**

１運営分担や日程

［東部地区］
●大変よかったが、時間が足りなかった。
●終了時間を厳守していただきたい。
△講師の方には、夏休みの研修会にきてほしい。
△午後13時30分開始、午後16時30分閉会ぐらいがよいのではないか。
△開会の挨拶、閉会の挨拶、諸連絡、片付けの時間をとる。
●研究授業と部会協議①の間の休憩は、体調管理の面から短時間でも取っていただきたかった。
△開始時刻が14時に設定されたことで、余裕をもって勤務校を出発できた。その一方で、終了時刻が16:45を過ぎたことで、帰宅時間が18時を過ぎていた。県東部全域から会員が集まることから、開始時刻と終了時刻すなわち、勤務校を出発する時間と帰着する時間をどのように捉えるかは検討が必要である。
（研修時間を弾力的に運用できるのであれば、開始を少し遅らせ、終了を少し早めるというようにできたら、出張の負担感が減る。）
●勤務時間が16:30までの学校もあるので、時間配分を配慮してほしい。
△開始時刻が14:10と遅めだったのはよかったが、時間が超過してしまい、帰りが16:45を過ぎてしまった。アドバイザーによる講義がある時は他の部会のように13:30開始にして時間延長になっても16:45には閉会できるようにしてほしい。

［西部地区］
●授業を配信にするため、視聴覚担当者は11時30分に集合して準備することにした。音声や映像の調整等、準備が大変であった。
●アドバイザー講義が入ると日程が慌ただしくなってしまう。

２研究授業

［東部地区］
○指導案をしっかり検討して作り上げていてよかった。
○細かいレジメもあり、助かった。
●生の授業がみられないのは意見がもちにくい。
△授業の録画を中継であれば、オンラインでできないか。（今年は参加人数が少なく比較的見やすかった。音声は聞き取りづらいところがあった。）
△郡市のバランスや担当障害種に配慮した班編成を事前に検討していただけると、グループの話合いがさ

らに深まったと思う。

［西部地区］

△事前に研究授業をビデオ撮りしておき、それを見て研究協議することも検討していけばよいのではないか。カメラ等を設置して別の部屋で見るというのはいろいろ準備していても予期せぬことが出てきて大変である。

３研究発表

・今回はなし

４研究協議

［東部地区］

●時間が短かった。

●グループ討論の時間が短すぎて、全く意見の深まりがなかった。

●討議を行うのであれば、昨年度の新川地区のように座席指定でもよかった。

○私の班はうまく他の地区や支援学校の先生等がおられ、違った視点から話を聞くことができた。

［西部地区］

○資料の中に研究協議の行い方が載せてあり、協議の目的や付箋の書き方、話合い、発言例等が事前に分かり研究会に臨みやすかった。

△青の付箋には生徒の事実、赤の付箋にはその言動の解釈を書くことになっていたが、２つに分けて書くことで時間がかかってしまい、１枚の紙にまとめて書く方がスムーズに書けたのではないか。

●協議会のグループ割りの座席についての用紙を受付で配布すればよかった。

５授業力向上のためのアドバイザー講義

［西部地区］

○研究授業の内容でよかった点、課題等について的確に述べられていて、今後の指導に十分に役立てることができると思った。

○生徒の行動・学習支援の必要な場面における教師の関わり方についていろいろな例をもとにした分かりやすい内容であった。生徒に対する話し方のよい例や悪い例を実際にしてくださり、とても参考になった。

△講演時間が短かったように思う。他県から来ていただく講師の場合は少なくとも９０分は確保した方がよいのではないか。

## Ⅴ　各研究部会独自の意見や要望

［東部地区］

・講演では、障害に携わっている方の講話や医学的な分野で専門的な知識が学べる講話が大変有意義で、適切な保護者・生徒対応につながると思います

・参加者が非常に少ない。部会員が参加しやすいよう、各校での協力があればよい。

・ほっぷの北川さんの講演がとても心に残った。経験を通してわかりやすく、生徒たちへの対応を講演していただきためになった。

・講演を聞いて、障害に関する知識、接し方、そして、障害がなくても地域・学校・保護者の連携が大切だと改めて思った。この講演は、特別支援級以外の先生方にも必要な内容だと感じた。他の教科や様々な研修で講演をしていただきたいと思った。

・今年度から各学校１名の参加となり、ありがたかった。今後は、事前に知的級か自情級等の情報を知らせていただけると参加者を決めやすい。

・今年度、大会参加者は各校代表１名でもよかったので、担任している生徒を午後からどうするか悩まなくてよかった。次年度も継続してほしい。

・他市町村との連携を増やしたい。

・より多くの先生方の授業を見て、多くの議論を重ねたい。映像視聴の形をとるのであれば、事前にいくつかの授業を視聴して当日参加し、議論の時間を多く確保するのはどうか。同時に、生徒の実態は丁寧に記述した上で指導案を略案にすれば、授業者の負担も軽減され、研究対象となる授業を増やせるのではないか。

［西部地区］

・今回の出張では、特別支援教育担当が各学校最低１名参加となり、研修会に出やすくなってよかった。

・当日、４時間目から映像の中継準備をしたが、接続機器の確認が不十分だった。前日準備で問題を洗い出して、当日を迎えた方がよい。

・遠隔会議システムでの音声をはっきり届けるための機器を事務局で準備してもよいのではないか。50名を超える参観者が小さな教室に押し掛けるという構造的な問題は変わらないので、複数のワイヤレスピンマイクを使えるようなものが、3000円程度の安価なものから手に入るので、検討してほしい。

＜保健部会＞

**Ⅰ 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと**

（提案発表）

○心という難しいテーマを扱った発表であった。カードの活用やＳＣが参加した学校保健委員会等の取組が、チーム支援や生徒の心の健康につながっていくことが分かった。

○ＳＣとの連携や学年の実態に合わせた内容の指導により、ストレス対処法について子供たちは実践を交えながら具体的に学ぶことができた。子供たちの指導後の感想からストレスについて自分に合った対処法を考える中で、他者を意識した広い視点で考えを深めていることが伺えた。また、ＳＣが身近に感じられたことや気軽に相談してよいことがわかり、継続した支援につながっていた。

○保健室来室カードは、柔らかい表現やイラスト等があり生徒が書きやすい様式に工夫されていて興味深かった。また、生徒自身が心の健康状態をみつめることができる内容に工夫されていたことで、心の健康状態と体の健康状態はつながっていると実感でき効果的であった。

○保健室来室カードの在り方を多面的に考えることができた。保健室来室カードは、養護教諭が生徒理会をする、アセスメントするだけでなく、生徒自身が自分の健康状態に気付き振り返る、自己管理能力を高めるツールの意味をもつことや、ＳＯＳサインをキャッチする手立ての一つになると思った。

○来室した生徒が、心に関する資料や書籍、掲示物に触れることができるような工夫がされていたことはよかった。

○個別の保健指導の内容は、自校でも実践に取り入れられる内容で参考になった。

○提案発表により、自校での活動がどの支援に繋がっているか、効果的な支援はどうあればよいかなど再確認することができ、自分事として考えを深められた。

○教職員研修で正しい知識の共通理解が図られたことにより、教職員全員が同じ考えや方針で生徒の対応ができていると思う。

○心の健康課題についての対応は、今後ますます必要になると思う。また、どの学校でも共通する重要な課題である。チーム学校で組織的に対応できるかがカギになると強く感じた。

○心の健康課題について提案発表される機会が少ないが、近年、執務をする上で多くの時間が必要な分野である。養護教諭という立場では思うようにいかない分野でもある。保健室や養護教諭の役割に対する理解が、学校全体に深まるための働きかけをこの研究会で学んだ。

○多忙化する職務の中でも、教職員や関係者・関係機関とコミュニケーションを図り、進めていかなければと思った。

（グループ協議）

○心の支援については保健室で関わることが多く、対応に悩むことも多い。キーワードを基に各校の実践や日頃の執務についてグループで意見交換したり、考えを深めたりすることができ勉強になった。

○事前に資料を読み、ワークシートを記入して協議会に参加することは、自分の考えがまとまっており、協議会での話合いも深まりがあった。提案発表でも参考になる実践があったがグループ協議ではより具体的な実践を聴くことができ自校での参考になった。

○心理教育的援助サービス（石隈先生理論）と富山市の構想があったことで、部会協議での視点が明確で協議しやすかった。

**Ⅱ 今後、工夫・改善が必要と思われる事項**

●心理教育的援助サービスは、生徒指導提要では「重層的支援構造」として掲載されているので、生徒指導提要に基づいた支援の研究も今後していかなければいけないのではないか。生徒指導提要をしっかりと読んでおく必要性を感じた。

●保健室来室カードは、臨機応変に記入させていると思うが、項目が細かすぎる気がした。うまく活用できれば有効な手段ではあるが、書くのに時間がかかる生徒や読み書きを負担に感じる生徒もいる。手立てとして準備し、生徒の状況等に応じて対応できるツールと考えることがよいのではないか。

●来室が少ない生徒のＳＯＳを、ＩＣＴを活用し早期に発見できる工夫が必要ではないか。

●チーム学校の中での養護教諭が果たすべき役割を生徒指導面からも考えていくことが大切であると思った。

●用語や言葉の使い方が正確なのか気になった。（例えば、体制づくり、チーム学校を目指す主務は養護教諭なのか、養護教諭の役割や捉え方に養護教諭自身が混乱しているのではないか）組織の中でそれぞれ担当がある、その中で養護教諭として役割を果たすことが適切ではないか。

●提案発表資料、スライド資料、発表内容に違いがあり、発表時の内容が分かりにくかった。

●ＳＣの来校日が限られている、不在時に早急に対応が必要な生徒への支援をどのようにしていくか、つなげていくかが課題ではと思う。

●実態の捉え方について、情報の正確さや情報の読み取り、分析が適切であったか。読み解く力、把握力、分析力が必要ではないか。

●地区の研究計画の主題や仮説を考えた取組だったのか。実践・成果・課題のつながりが資料や発表から見えづらかった。どの実践に対する結論なのか、まとまりに欠けていたように感じた。

●資料には書かれていない執務場面での苦労や失敗、どうすればよいのか、課題だと感じることを成果だけでなく記載すべきではないか。そのことにより共感が得られ、より協議会での意見交換が提案発表に関連させたものになったのではないか。さらに、今後の支援や組織の中での役割が明確になることにつながったのではないか。

**Ⅲ 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）**

**①会場の決定**

○県内全域での開催のため、東西の距離的に速星公民館がよい、しかし、１７時に退館のため後始末や講師の予定等で大変なことがある。対策として日程内容や時間配分を工夫していきたい。

**②資料の編集及び事前研修会**

○事前研修会での協議や県役員とも内容を検討したことで、提案発表資料が事前研修会前より、よくなって

いたので意義があった。
●しかし、発表地区の思いがあるため内容の検討に難しい面もあった。
**③資料の製本や配布等**
○資料等がスムーズに届き、提案発表資料を読む時間もあり配信期日、配信方法は適切であった。

**Ⅳ 研究大会当日の運営や内容について**
**①運営分担や日程**
○会場設営時の記録（写真）を残す。今年度は、控え室の配置を写真で残しておいた。
●富山市の会場準備の担当者について、人数及び担当者は誰かをはっきりさせ、県役員の最終打合わせの後に会場へ入っていただくようにしたほうがよい。非常に早い段階から会場設営が進められ、県役員担当者の配置ができず指示ができなかったため、会場の設営で訂正が必要になった。　←対策を話合いました。次年度に引き継ぐ予定です。
**②提案発表**
○資料の枚数や発表時間が発表者にとって負担にならない方向にきている、今後も内容の負担軽減も含めて継続できるようにしてほしい。
●今年度、提案の中に当日配布の事例資料があり、事前に提案資料の中に当日配布の事例資料があることは記載されていたが、読めなかったという意見が多数出ていた。「大会開始まで時間があります、当日配布された資料がありますので読んでお待ちください」等、司会者がアナウンスすればよかったと思うが、大人が参加の研修会であるのに、開始までの時間の活用についても役員として考え、アナウンスしていかなければいけないのか。
**③部会協議①**
○資料の配信と同時に、協議会の内容や用紙を配信した。事前に資料を読み意見を書いて参加したことで部会協議が深まり、時間も有効に使うことができた。
○協議の時間や人数は適切であった。司会が進行をスムーズに行えるように工夫していた。
●発表された提案を基に「自分だったらどのようなことができるか、それをするには他にどのような方法があるか」等、執務につながる協議会の内容になるとよい。しかし、自校の実践を協議会で発表したり、自校の実践で悩んでいることに対して助言をしたりしていたグループもある。グループによる協議の進め方の差をなくすことが必要と思われる。
●グループの人数を少なくする意見が出ていた。全体共有の時間の関係でグループ数を少なくしたが、全グループの発表にこだわらず、協議会の充実ということで考えていきたい。
●事前に司会者にグループ協議の運営（視点に沿った協議、指定された視点と他の視点等と関連させた協議等）について研究推進委員長が資料を作成し、事前に渡しスムーズで充実した協議会を依頼していたが資料が生かされなかった。ズームでの打ち合わせも検討していきたい。
●他地区との情報交換の意味も含めてのグループ編成だと思うが、ときには同じ地区でのグループ編成もよいのではないか。
●大会後、まとめの参考とするためワークシートの回収について、ワークシート内及び事前案内でお知らせしてあったが、メモをしたため回収されて困ったという意見があった。丁寧な案内を心がけていきたい。
**④授業力向上のためのアドバイザー講義**
○養護教諭の専門性について改めて考えさせられた。養護教諭の多様化する職務の中で大切にしたいことを整理することができた。改めて養護教諭の専門性を意識し、優先して執務を行うことや発信していくことの大切さを学んだ。
○多くの資料を基に養護教諭の専門性や役割が時代とともに少しずつ変化していることが理解できた。子供たちの実態や時代の背景、世間の価値観の変化に合わせて、養護教諭としての働き方、支援の在り方等を柔軟に対応していきたいと思った。
○先生の話は、養護教諭を応援していただいていることが実感でき、元気をもらった。
●講演時間の延長を希望。
**⑤その他**
○下足の自己管理はよかった。役員もビニールシートの準備、片付けがなくよかった。
●保健部会の特質を生かし、提案発表を隔年にしアドバイザー事業を充実させる方法もよいのではないか。
●今年度の提案発表の形式は、実践報告という面が大きかった。今後、県及び市の研究の構想、計画が位置づけられていることから、どのように研究をまとめ、発表していくことがよいのか検討の必要があるのではないか。←役員の意見を聞いた。

**Ⅴ 保健部会独自の意見や要望**
・今後も日々の執務に支障や負担が大きくならず、日々の執務に生かせる研究を進めていけたらよい。
・地区による発表や担当への負担感に差がある。←今後、部会内で検討していきたい。
・会報提出期限を延ばすことはできないでしょうか。